

令和5年度第1回飯田市これからの学校のあり方審議会 次第

日 時 令和5年5月 25 日(木)19:00～20:30

会 場 飯田市役所 C311～C313 会議室

1 開会

2 任命書の交付

3 教育長あいさつ

4 審議会について

5 自己紹介

6 正副会長選出

会長 _____

副会長 _____

7 会長あいさつ

8 諮問

9 報告・説明事項

(1) 学校の教育環境の変化と課題

(2) 令和2年度からの検討経過

①保護者アンケートの結果について

②特色ある学校づくりについて

③学校の配置・枠組み研究について

(3) 審議スケジュール(案)について

(4) その他

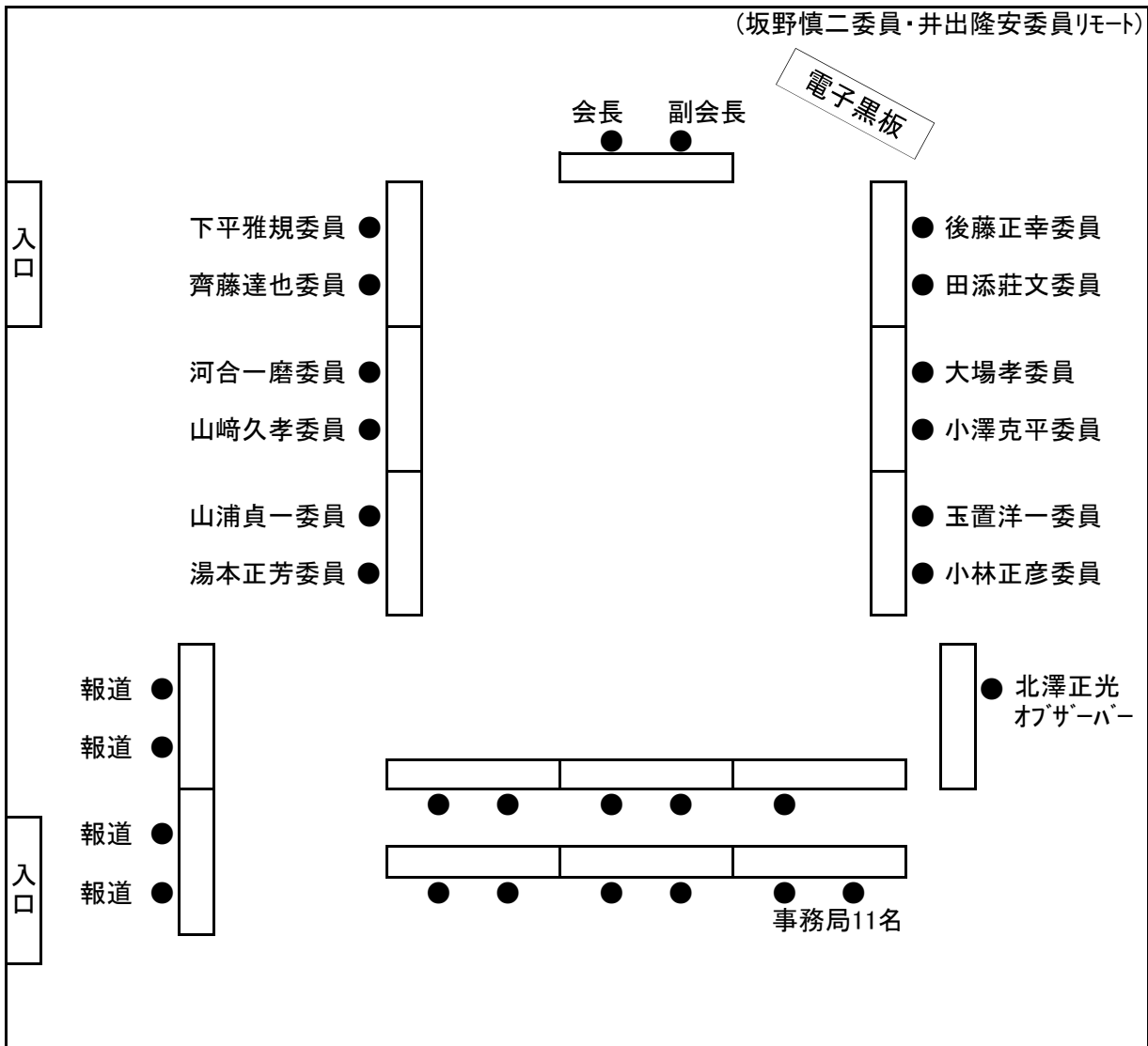
10 連絡事項

第2回審議会開催予定:令和5年7月 27 日(木) 19:00 ～ 20:30

11 閉会

第1回 飯田市これからの学校のあり方審議会 配席図

日時: 令和5年5月25日(木) 19:00~20:30
 会場: 飯田市役所本庁舎 C311~C313会議室



令和5年度 飯田市これからの学校のあり方審議会 委員名簿

(敬称略・条例順)

氏名	所属等	備考
後藤 正幸	学識経験者	前信濃教育会会長
坂野 慎二	学識経験者	玉川大学教育学部教授
井出 隆安	学識経験者	前杉並区教育長
田添 莊文	学識経験者	前竜丘公民館長
渡邊 嘉藏	丸山まちづくり委員会	
大場 孝	東野まちづくり会議	
小澤 克平	千代地区まちづくり委員会	
玉置 洋一	南信濃まちづくり委員会	
小林 正彦	飯田市校長会	浜井場小学校長
湯本 正芳	飯田市校長会	緑ヶ丘中学校長
山浦 貞一	飯田市公民館	上郷公民館長
山崎 久孝	飯田市PTA連合会監事	遠山中学校PTA会長
河合 一磨	飯田市PTA連合会監事	松尾小学校PTA副会長
齊藤 達也	飯田市保育園保護者会連合会	鼎みつば保育園保護者会長
下平 雅規	飯田市私立認定こども園保護者等連合会	勅使河原学園保護者会長

15 名

令和5年度 飯田市これからの学校のあり方審議会 オブザーバー名簿

(敬称略)

氏名	所属等	備考
北澤 正光	飯田市教育長職務代理者	

1 名

令和5年度「飯田市これからの学校のあり方審議会」
事務局名簿

氏名	職責	備考
熊谷 邦千加	飯田市教育長	
秦野 高彦	教育次長	
福澤 好晃	学校教育課長	
今井 栄浩	学校教育専門幹	
櫻井 英人	学校教育課長補佐兼総務係長	
佐々木 美鈴	学校教育課長補佐兼学務係長	
麦島 隆	学校教育課教育支援係長	
仲田 好寿	学校教育課保健給食係長	
倉田 奨	学校教育課教育企画係長	
松下 徹	教育委員会統括支援担当専門主査	
桐生 尊義	学校教育課教育支援指導主事	

11名

飯田市これからの学校のあり方審議会条例

(設置)

第1条 飯田市の学校（飯田市立小学校及び中学校を設置する条例（昭和42年飯田市条例第57号）第2条に規定するものをいう。以下同じ。）を取り巻く教育環境の変化への対応に必要な方策を調査審議するため、飯田市これからの学校のあり方審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 審議会は、飯田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 前条の方策に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、飯田市の教育行政に関し教育委員会が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 審議会は、委員15人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) まちづくり委員会（飯田市自治基本条例（平成18年飯田市条例第40号）第14条に規定する委員会等をいう。）を代表する者
- (3) 教育に関する事業又は活動に携わる者
- (4) 学校に通学する児童又は生徒の保護者（当該児童又は生徒を監護する者をいう。）を代表する者
- (5) 飯田市の区域に存する保育所又は認定こども園に通所する児童の保護者（当該児童を監護する者をいう。）を代表する者
- (6) 前各号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第6条 審議会に会長1人及び副会長1人を置き、委員の互選により選任する。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 審議会の会議は、会長が招集し会長が議長となる。ただし、会長が選任されていない場合は、教育委員会が招集する。

2 審議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 審議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、令和5年4月1日から施行する。
(飯田市特別職の職員で非常勤の者の報酬に関する条例の一部改正)
- 2 飯田市特別職の職員で非常勤の者の報酬に関する条例(昭和37年飯田市条例第10号)の一部を次のように改正する。

「
別表中 | 飯田市就学相談委員会の委員 | を
」

「
| 飯田市就学相談委員会の委員 |
| 飯田市これからの学校のあり方審議会の委員 | に改める。
」

5 飯教学第 251 号
令和 5 年 5 月 25 日

飯田市これからの学校のあり方審議会会長 様

飯田市教育委員会

飯田市の学校を取り巻く教育環境の変化への対応に必要な方策について（諮問）

このことについて、下記のとおり諮問します。

記

1 趣旨（諮問内容）

飯田市教育委員会では、教育ビジョンとして「地育力による 未来をひらく ころ豊かな人づくり」を掲げ、市内 28 校の小中学校において、6 年間にわたる飯田コミュニティスクールや 12 年間にわたる小中連携・一貫教育の取組を重ねてきました。これまで地域とともに進めてきた取組は、子どもたちの健やかな成長やふるさと意識の醸成に大きな役割を果たしてきています。一方、教育環境をめぐるっては、急激な少子化の進行による児童生徒数の減少や施設の老朽化という課題も生じています。

これらの背景を踏まえ、これからの時代の教育に対応したより良い教育環境づくりに向けた「これからの学校のあり方」についての基本方針を策定したいので、次の 2 点について審議会における調査・審議、提言をいただきたく諮問いたします。

- (1) 飯田市立小・中学校のこれからの配置・枠組みのあり方について
- (2) 特色と魅力ある教育活動のあり方について

2 答申時期

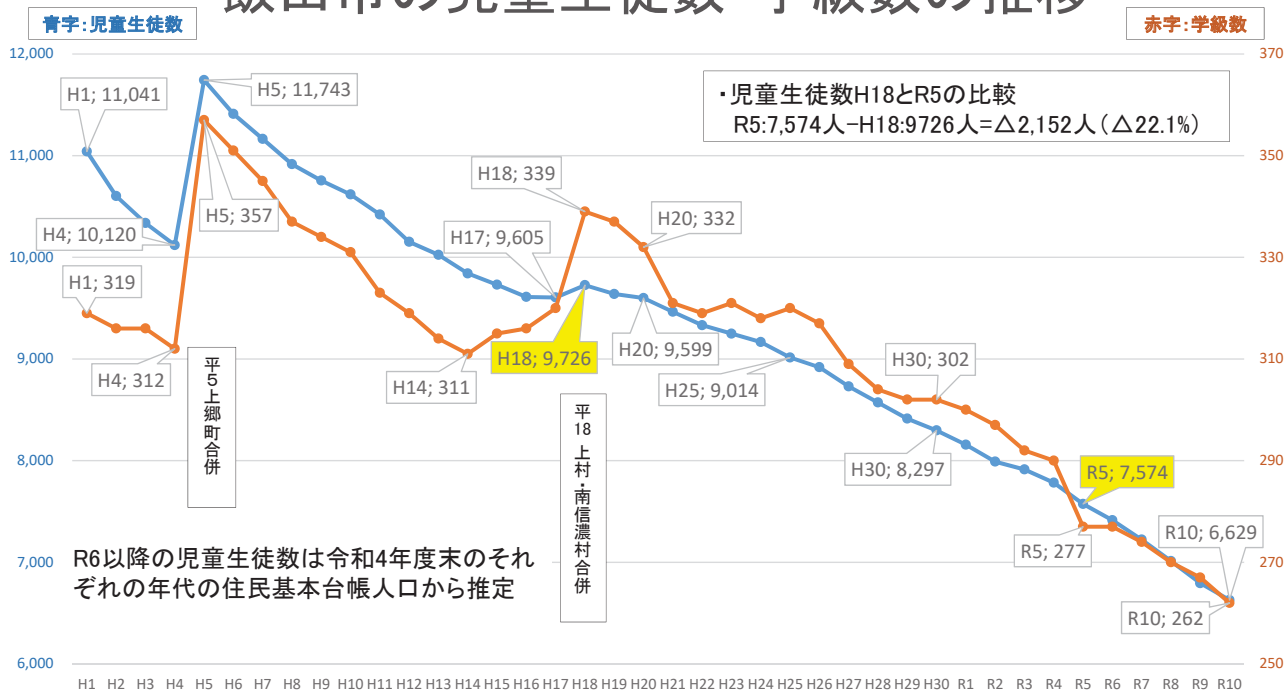
令和 7 年 3 月末日までに答申をお願いします。

9 報告・説明事項

(1) 学校の教育環境の変化と課題

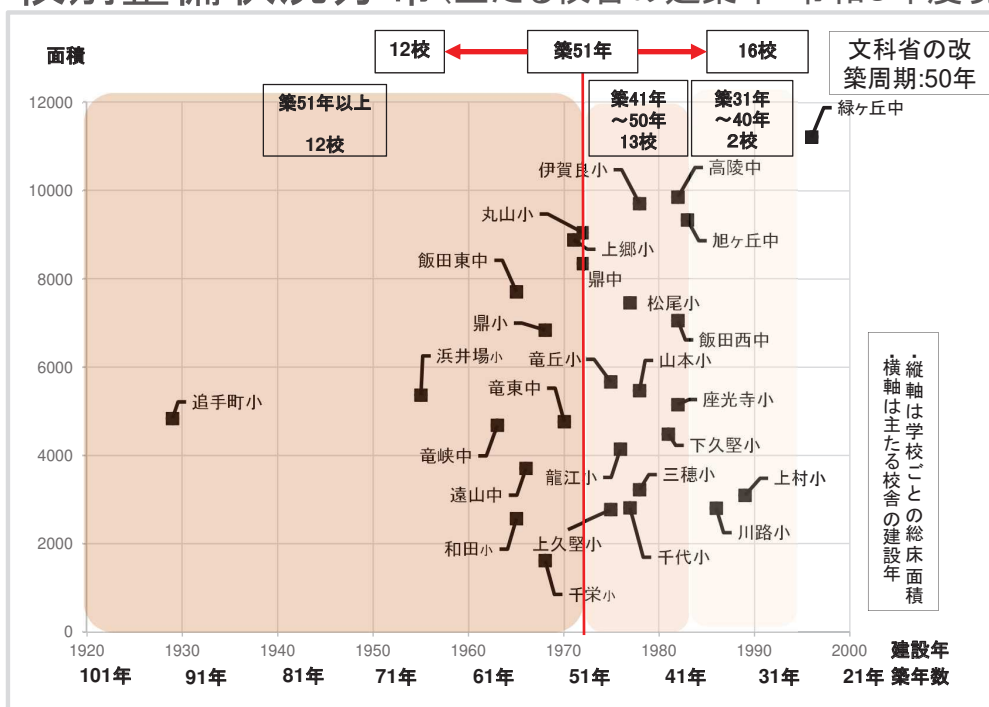
学校の教育環境の変化と課題

飯田市の児童生徒数・学級数の推移



- 少子化にともない児童生徒数が減少し続けており、このまま推移するとR5年からR10年まで毎年平均約190人ずつ減り、R10年はピークのH5年の約6割になることが予測されます。
- 児童生徒数の減少により小規模校が増えて、教職員数も減少していきます。一定の学級数を下回ると小学校では専科教員が配置されないことや、中学校では全ての教科に専任教員を配置することができなくなります。

学校別整備状況分布(主たる校舎の建築年・令和5年度現在)



- 小中学校28校(小学校19校、中学校9校)のうち、3分の1以上の12校が令和5年度時点で国の改築目安とされている築後50年を経過し、今後10年間の内には、さらに13校を加えた合計25校が長寿命化のための大規模改修や改築についての検討が必要な状況となります。
- 学校施設を長寿命化せずに、現在の学校数のまま修繕・改築していく場合は、今後40年間にわたって毎年多額の費用が必要になり、教育関連事業の実施に多大な影響を及ぼすこととなります。

小中学校が果たす役割は

子どもにとっての学校

全ての子どもが自立して社会で生き、個人として豊かな人生を送ることができるよう、その基礎となる力を培う場であり、子どもたちの豊かな学びと成長を保障する場

地域にとっての学校

地域コミュニティの拠点であり、地域の将来の担い手となる人材を育成する場

あり方検討の柱とするテーマ

特色と魅力ある学校づくり

中学校区ごとにめざす子どもの姿を描き出し、学校・家庭・地域が協働して進めていく9年間の特色ある教育活動のあり方を明らかにする

学校の配置・枠組み

少子化と施設の老朽化に伴う課題を乗り越えて、小中一貫の特色ある学びが行える学校の構成や仕組みのあり方を明らかにする



これからの学校のあり方 方針



検討を進めるうえで大切にしたいこと

子どもたちが、確かな学力と生きるための力を身につけることができる教育環境であること



地域とともに歩む、飯田コミュニティスクール（※1）や小中連携・一貫教育（※2）の特色を生かした学校づくりであること

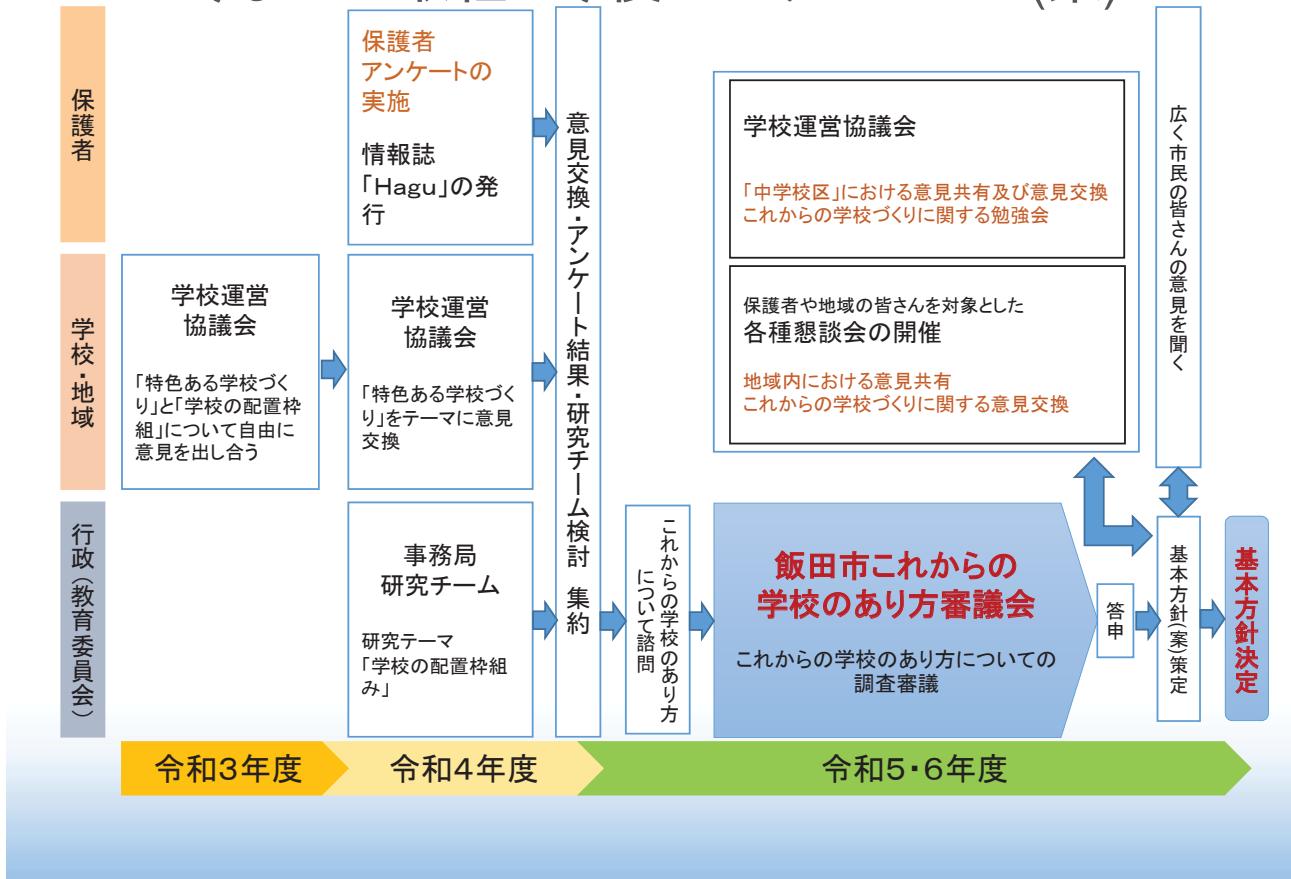
将来この地域の担い手となる子どもたちのために、子どもたちが主役となる学校づくりであること



※1 飯田コミュニティスクール 学校運営協議会を置いて、家庭、地域、学校が“めざす子ども像”を定め、そのめざす子ども像に向かって、三者が相互に承認・評価し合い、地域住民が積極的に学校の活動を支援し協働していく飯田ならではの学校のしくみ。

※2 小中連携・一貫教育 小中学校が互いに情報交換や交流を通じ、小学校から中学校への円滑な接続をめざすとともに、めざす子ども像を小中学校が共有して、子どもたちが9年間を通じて系統的な学びを行えることを重視した教育。

今までの取組と今後のスケジュール(案)



(2)令和2年度からの検討経過

【令和2年 10 月】

○少子化における教育環境の課題を担当するため、教育委員会学校教育課学務係内に、教育企画担当主幹を1名配置。

【令和2年 12 月 15 日 令和2年度第1回研究会】

- ①「児童生徒が減少していること」「校舎の老朽化が進んでいること」「校舎の更新に多大なコストがかかること」
 - ②数合わせではなく、子どもを真ん中に置いて、将来の子どもたちにとって望ましい教育環境はどんな学校か、みんな(教職員、保護者、地域、教育委員会)で考えていく。→地域とともに歩んできた飯田市の学校にふさわしい方法。
 - ③「将来にわたり子どもたちが主体的に学び合える場」をもとに令和3年度に各学校運営協議会で意見交換。
- ⇒①②③について共有

※研究会は「飯田市少子化における児童生徒の教育環境の充実にに向けた取組研究会」の略研究会の構成員は有識者及び各種団体代表者の計 16 名で組織

【令和3年3月3日 令和2年度第2回研究会(勉強会)】

研究会の委員である二人の有識者から先行事例等についてプレゼン。

○坂野 慎二 教授(玉川大学教育学部)

「少子化における児童生徒の教育環境について」

- ・文部科学省の通知やデータの照会
- ・栃木県小山市の事例

○伏木 久始 教授(信州大学学術研究院教育学系)

「これからの学校教育に求められる学びをどうイメージするのか」

- ・少子人口減少社会に求められる教育
- ・県内の事例

【令和3年5月 14 日 令和2年度第3回研究会】

1学期の学校運営協議会での意見交換の前提として

- 今後の学校のあり方については、児童生徒数や学校施設の状況などにより、それぞれの地域の捉え方や認識に違いがある。それぞれの状況を踏まえながら、丁寧に意見交換を進めていく。
- 飯田市全体の現状を説明したうえで、それぞれの学校の様子や課題、地域の取り組みなどについて、結論ありきではなく意見を出し合う場とする。

【令和3年5月～7月 各学校運営協議会】

【令和3年9月 28 日 令和3年度第1回研究会】

○1学期各学校運営協議会での意見交換内容を報告

○2学期意見交換の進め方について

1学期の意見交換をふまえ、いかに学校の特色・魅力を磨き上げていくか、結論を求めるものではなく意見交換を進めていく。

【令和3年9月～12月 各学校運営協議会】

【令和3年12月14日 教育委員会定例会】

○少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組について2学期学校運営協議会での意見交換の経過報告

【令和4年2月 保護者】

○保護者向け概要版配布「児童生徒「ひとりひとり」の学びを支える地域に根ざした飯田らしい教育環境づくりに向けて」配布

【令和4年3月15日 令和3年度第2回研究会】

○少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組今後の検討の進め方について

〈方向性〉

- ・特色魅力ある学校づくりを重点に必要に応じて学校の配置・枠組みについて、学校運営協議会が中心となり地域的な話し合いを行っていく。
- ・話し合いにおいては、当事者である保護者や児童生徒の意見を大切に考える。
- ・小中一貫教育や新しい教室づくり、家庭や地域とともに学ぶの環境づくり等についての理解を求める。

〈今後の進め方の例〉

- ・今後の学校教育のあり方(令和の日本型学校教育など)の勉強会を開催する。
- ・学校運営協議会を中心に保護者や地域の人なども幅広く参加できる場を作る。
- ・保護者や児童生徒へのアンケートを実施する。
- ・新たな学校のかたち(小中一貫教育など)の勉強会を開催する。
- ・議論の内容を広報する。

【客観的なデータ等も見ながら児童生徒の現状を認識し、特色・魅力ある学校づくりを考える】

- ① 全国学力・学習状況調査 ② 全国体力・運動能力・運動習慣等調査
- ② 不登校児童生徒の状況

座長まとめ

「学校運営協議会の中でより具体的な話ができるテーマを出し、話し合いをしやすいようにする。」

【令和4年4月～6月 各学校運営協議会】**【令和4年5月～8月 各学校臨時学校運営協議会】****【令和4年7月28日 令和4年度第1回研究会】**

○令和2年度からの経過について報告

○令和4年度の検討の進め方について

各学校運営協議会で「特色ある学校づくり」を重点テーマとし、当事者である保護者や児童生徒の意見を大切に考えながら意見交換を行う。また、教育委員会事務局で小中一貫教育やこれからの学校づくり等についての専門研究及び今後の方針決定に備えた諮問・答申機関立ち上げ等についての協議を行う。

○アンケート調査(素案)について

令和3年度・4年度に実施している学校運営協議会での意見交換を基に、保護者向けのアンケート調査を行う。次回研究会で設問の最終確認を行ったうえで実施する。

【令和4年11月18日 令和4年度第2回研究会】

○令和4年度の取組状況について報告

○令和4年度の後半の進め方について

学校運営協議会における「特色ある学校づくり」についてまとめたものを次回研究会にて報告する。また、教育委員会事務局研究チームにて、新たな学校の制度や県内の事例、小中連携・一貫教育の取組を進めた学校づくり等についての研究を継続する。保護者アンケートについては研究会での意見を踏まえて修正したうえで実施する。これに合わせて、教育委員会情報誌「Hagu」をこれからの学校づくりについての特集号とし、アンケートと共に配布してアンケート回答のための資料としていただく。

○令和5年度の進め方について

新たに「あり方審議会(仮称)」を条例にて設置し、これからの学校のあり方に関する事等について審議いただく。

【令和5年1月 保護者】

○保護者向け情報誌「Hagu ～子どもたちを真ん中においたこれからの学校づくりについて検討を進めています～」配布

○市内保育園・幼稚園・認定こども園年中・年長児保護者及び小・中学校児童・生徒保護者を対象に「子どもたちを真ん中においたこれからの学校づくり」アンケート実施

【令和5年3月23日 令和4年度第3回研究会】

○令和4年度の取組について報告

保護者アンケートの結果、各学校運営協議会で行った「特色ある学校づくり」についての意見交換のまとめ、学校の配置・枠組みについての研究のまとめを報告。

○令和5年度の進め方について

飯田市の教育環境の変化への対応に必要な方策について調査審議を行うために、「飯田市これからの学校のあり方審議会」を設置する。審議会での最終答申までは約1年半から2年程度を想定し、最終答申後に飯田市教育委員会としての基本方針(案)を策定する。その後、広く意見をいただいたうえで基本方針として決定していく。

①保護者アンケートの結果について

～各設問に対する全体考察～

Q1：お子さんの通う学校はどのようなところであるべきだと思いますか？

- ・いずれの校種別、小・中学校規模別、中学校区別においても「基礎的な学力をつけるところ」の割合が最も高く、次いで人間関係又は多様な考えの順となっている。
- ・この問いに学校規模や地域における差は見られない。ただし特徴的な回答では、中学校区別回答の「地域コミュニティの核となるところ」で、遠山中学校区が他の中学校区の平均の2%に対し2割近くを占めている。

Q2：お子さんの通う学校の魅力はどのようなことだと思いますか？

- ・校種別ではいずれも「子どもが楽しく学校に通えている」が最も多く5割以上を占める。
- ・小学校規模別の「一人一人を大事にしてくれる」について、小規模校（複式）は7割程度、小規模（1学級）は半数程度、中規模（2学級）及び大規模（3学級以上）は2割程度というように、規模が小さいほど大きくなっている。
- ・この傾向は中学校規模別でも見られ、また、遠山中学校区においては8割以上の保護者が「一人一人を大事にしてくれる」と回答している。児童生徒に深く関わり、寄り添うことを小規模校の保護者は期待していることが伺える。

Q3：お子さんの通う学校の特色は何だと思いますか？

- ・校種別では「学校と地域の結びつきが強く、様々な活動に生かされている」が特色として上位に挙げられているが、中学校はその比率が園や小学校に比べてやや低い。
- ・小学校規模別、中学校区別（竜東・竜峡・遠山中学校区）に見ると「地域との結びつき」「学年を超えた交流」が盛んである。
- ・地域との結びつきは、コミュニテースクールやキャリア教育といった飯田市の今日までの取組みが反映された回答であり、アンケート自由記載のでも多くの意見があるように今後検討を進めていく上で特色ある学校づくりが必要と捉えられている。

Q4：お子さんが通う学校の規模（1校あたりの児童生徒数）に満足していますか？

- ・どの校種別で見ても「満足」「どちらかという満足」が8割以上を占めている。
- ・小学校の規模別に分析すると、1学級の小規模、中規模、大規模校共に「満足」「どちらかという満足」が8割以上を占めるが、複式となる小規模では「不満」「どちらかという不満」がほぼ半数を占めている。
- ・中学校でも同様の傾向がみられ、中規模校、大規模校では「満足」「おおよそ満足」が約8割を占めているのに対して、小規模校では「不満」「どちらかという不満」がこちらも半数近くを占めている。
- ・校区別では、小規模校区である竜東中学校区は約4割、遠山中学校区は7割以上が「不満」「どちらかという不満」となっており、小規模校では不満に感じていることが多く、特に複式においてはその傾向が顕著である。

Q 5 : お子さんが通う学校の児童生徒数についてどのように思われますか？

- ・どの校種においても4割以上が「適切」としているが、規模別になると、小学校の中規模（2学級）は「適切」が半数を超え、複式の小規模は「少ない」が最も多く約7割、1学級の小規模では「やや少ない」が最も多く5割を超えている。一方、大規模では「多い」又は「やや多い」が5割を超えている。
- ・中学校でも同様の傾向が見られ、小規模校は「少ない」「やや少ない」で7割以上、中規模校では「少ない」「やや少ない」が6割程度、大規模校では「多い」「やや多い」と「適切」がおおよそ半数ずつを占めている。
- ・校別にみると、遠山中学校区、竜東中学校区、竜峡中学校区、飯田東中学校区の4中学校区で「少ない」「やや少ない」が7割を超えており、次いで飯田西中学区の順となっている。これらの結果から大規模校は生徒数が「多い」「やや多い」と感じているが、クラス替えや多様性を学べる適正規模と捉えられているものと思われる。
- ・小規模校では児童生徒の少なさから不満に感じられることがQ4の回答からも伺える。

Q 6 : 1学年あたりの学級数はどのくらいが良いと思いますか？

- ・いずれの校種においても3学級から4学級以上が良いとしており、小学校から中学校へと学年が上がるにつれて、学級数が多くなることが望んでいる。
- ・規模別にみると小中学校共に小規模校及び中規模校において今の学級数より1学級程度多い学校規模を望んでいると考えられる。大規模校においては「4学級以上」を望んでおり現状に満足していると考えられる。
- ・中学校区別では、現状の学級数が良いとする傾向があり学校毎の違いが見られる。
- ・飯田東中学校区は小学校が単級の追手町小、浜井場小の2校であるのに対し、飯田西中学校区は各学年2～3学級の丸山小1校であることが結果の違いに影響を与えていると考えられる。
- ・小規模校なら小規模校の、大規模校なら大規模校のそれぞれの通っている学校にメリットを感じ、現在の学校規模や学級数を基本として少しの増加又は現状規模が良いと考えているものと思われる。
- ・小規模校と大規模校のそれぞれのメリットやデメリットがお互いに共有されていない部分が大きいと思われ、新たな学校種に向けての情報の提供に合わせて情報発信の必要な部分であると考ええる。

Q 7 : 学校を取り巻く現状（少子化や施設の老朽化）に対応し、子どもたちの教育環境を充実するために学校の統合等は必要だと思いますか？

- ・いずれの校種においても「必要」「どちらかという必要」を合わせると6割以上を占めており、これから学校に通う保護者も含めて、将来の子どもの教育環境を考えての結果だと考えられる。
- ・学校規模別では複式の小規模では「必要」「どちらかという必要」が8割を占め、多くの保護者が必要と感じている。中学校も合わせて他の規模はほぼ同じ傾向を示し、「必要」「どちらかという必要」を合わせて7割近くを占めている。
- ・中学校区の平均が6割程度であるのに対し、この平均を上回っているのは飯田東中学校区、飯

田西中学校区、竜東中学校区、遠山中学校区となっている。大規模校でも比較的数値が高いのは、少子化が急速に進む将来の教育環境を考慮しての回答であると思われる。

Q 8 : 児童生徒数の減少や校舎の老朽化の進行に対応するため、より良い教育環境づくりの検討が進められることについてどのように思われますか？

- ・小中学校の保護者は「将来的に検討が必要である」半数をやや上回るのに対し、これから学校に通うこととなる園に通う保護者は「早急に検討が必要」が半数近くを占めている。将来の学校のあり方を見据えた保護者の思いであると思われる。
- ・学校規模別では複式の小規模で「早急に検討が必要である」が7割近くを占めている一方で、それ以外の学校規模の傾向に大きな違いは見られず、「早急に～」が4割近く、「将来的に～」が半数程度を占めており、学校規模や学級規模に不安を抱える保護者は緊急性の高い取り組みであると捉えている。
- ・中学校区別では「早急に検討する必要がある」の比率が高いのは、遠山中学校区の7割以上と竜東中学校区の6割であり、平均の4割を上回るのは、飯田東中学校区、飯田西中学校区と鼎中学校区である。ここでも小規模校、特に複式学級となっている中学校区にとっての早急に対応すべき課題として捉えられていることが伺える。

Q 9 : 今後に向けて学校に期待したいことは何ですか？

- ・校種別、学校規模別、中学校区別とも「児童生徒に寄り添った学習や生活面でのサポート」を望まれる声が6割程度と最も多い。児童生徒のサポートについては教員配置によるところもあり、教育環境の充実に向け教員配置の面からも検討して行かなければならないことが伺える。
- ・地域との連携についても各中学校区共に2～3番目に多く、ここでも地域と連携した特色ある学校づくりが期待されている。

Q : 10 より良い教育環境づくりに取り組む上で教育委員会に望む事は何ですか？

- ・校種別、中学校区別ともいずれの回答の比率が2割～3割であり、いずれの回答においても大きな違いは見られず、「学校づくりの方策や選択肢を示して協議検討の場づくり」「教育委員会としての基本方針方針（案）を示す」「学校づくりの先進事例の情報の共有」「学校規模がその先の進学に与える影響について」のいずれも必要とされており早急な対応と共に取り組み進めなければならない課題であると思われる。
- ・小中学校の規模別回答では、小規模校の「小中学校の小規模校がその先の進学にどのような影響があるか伝えてほしい」の回答の比率が多く保護者が不安に感じている部分であると思われる。

「子どもたちを真ん中においたこれからの学校づくり」アンケート結果

(令和5年1月実施)

アンケート対象児童生徒・園児数 9,273人

(小学校：5,053人 中学校：2,725人 園：1,495人)

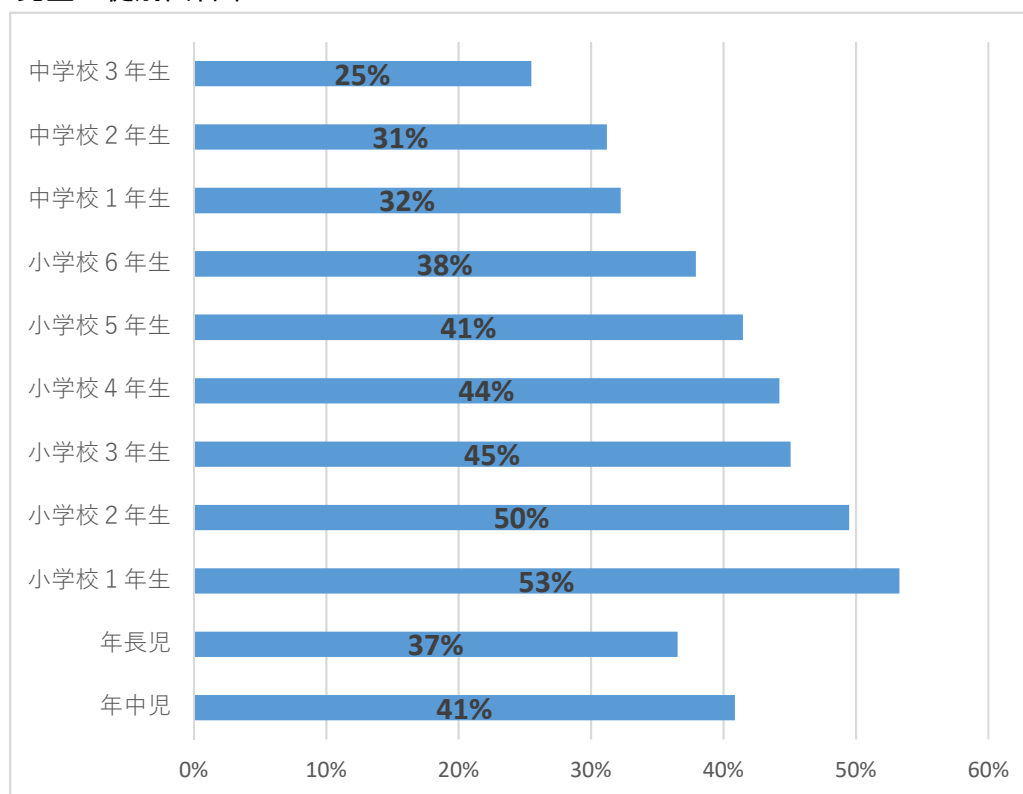
アンケート回答児童生徒・園児数 3,659人

(小学校：2,276人 中学校：805人 園：578人)

アンケート回答率（児童生徒・園児数比） 40%

(小学校：45% 中学校：30% 園：39%)

児童生徒別回答率



分析1：校種別回答

園保護者357人 小学校保護者1,721人 中学校保護者649人

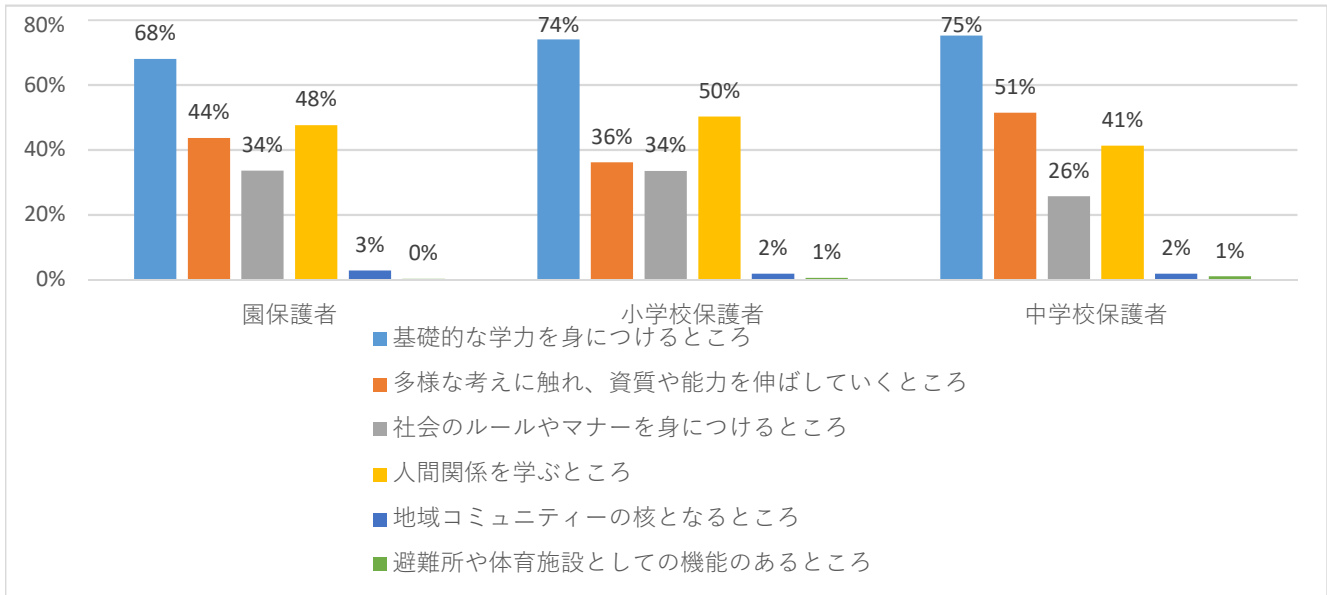
分析2：学校規模別回答

- ※小学校規模別
小規模（複式）上久堅、千代、千栄、上村、和田 5校
小規模（学年1学級）追手町、浜井場、下久堅、龍江、川路、三穂 6校
中規模（学年2学級）丸山、座光寺、竜丘、山本 4校
大規模（学年3学級以上）松尾、伊賀良、鼎、上郷 4校
- ※中学校規模別
小規模（学年1学級）竜東、遠山 2校
中規模（学年2学級）飯田東、飯田西、竜峡 3校
大規模（学年3学級以上）緑ヶ丘、旭ヶ丘、鼎、高陵 4校

分析3：中学校区別回答

Q1：お子さんの通う学校はどのようなところであるべきだと思いますか？（上位2つまで選択可能）

分析1：校種別回答

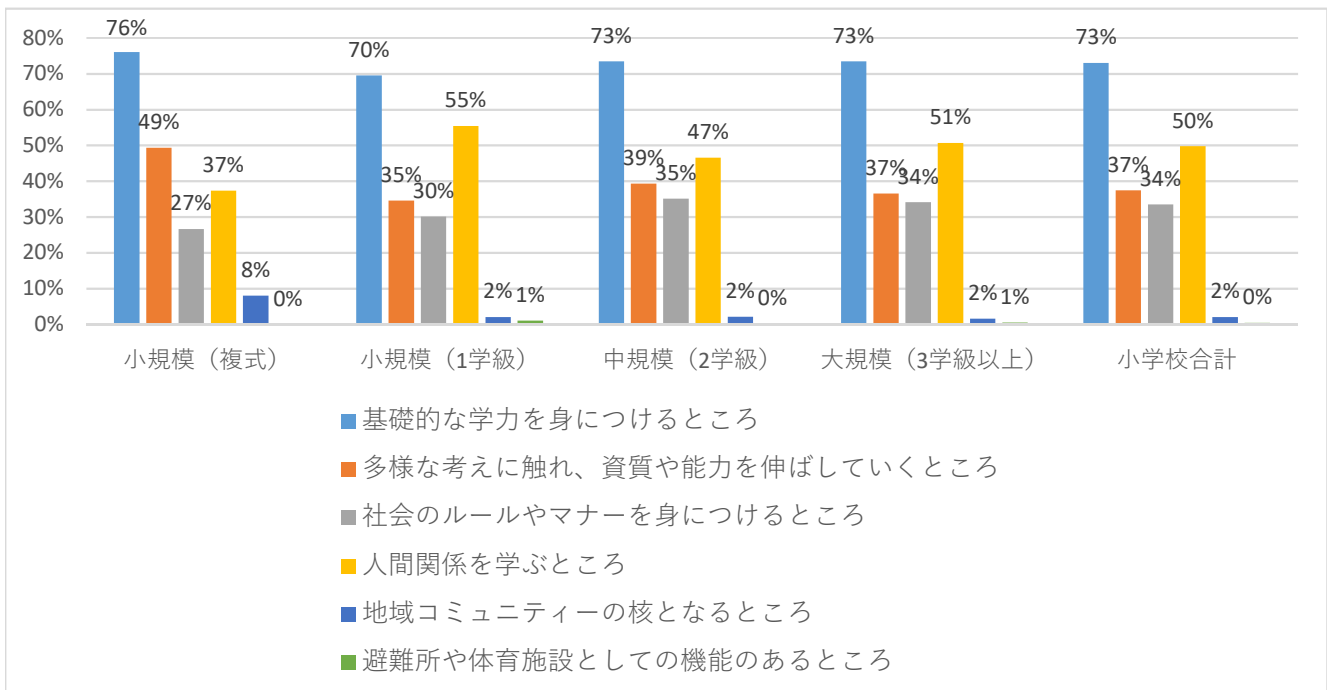


■どの学校種でも「基礎的な学力をつけるところ」の比率が最も高い。

■園・小学校は「人間関係を学ぶところ」が2番目、「多様な考えに触れ資質や能力を伸ばすところ」が3番目、中学校は「多様な」が2番目、「人間関係」が3番目となっている。

■中学校は園、小学校に比べ「多様な考えに触れ資質や能力を伸ばしていくところ」の比率が高い。

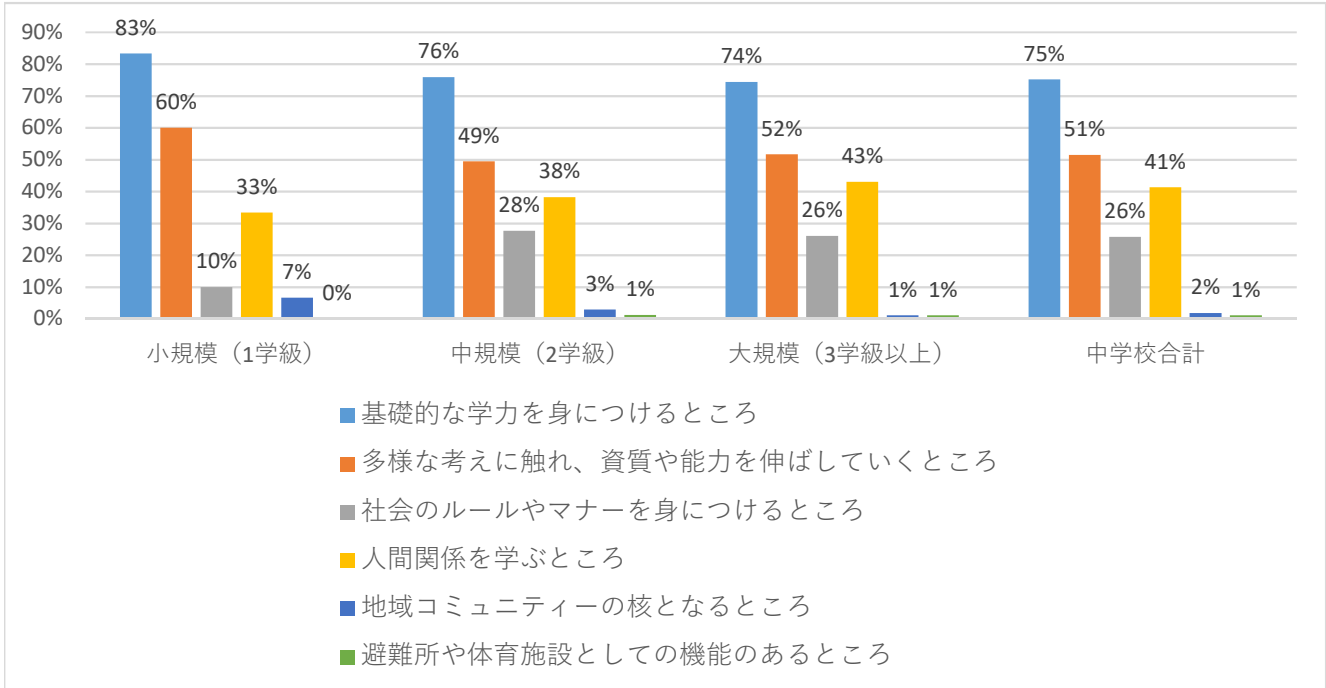
分析2：小学校規模別回答



■学校規模による大きな違いは見られず、「基礎的な学力を身につけるところ」が70%以上を占めている。

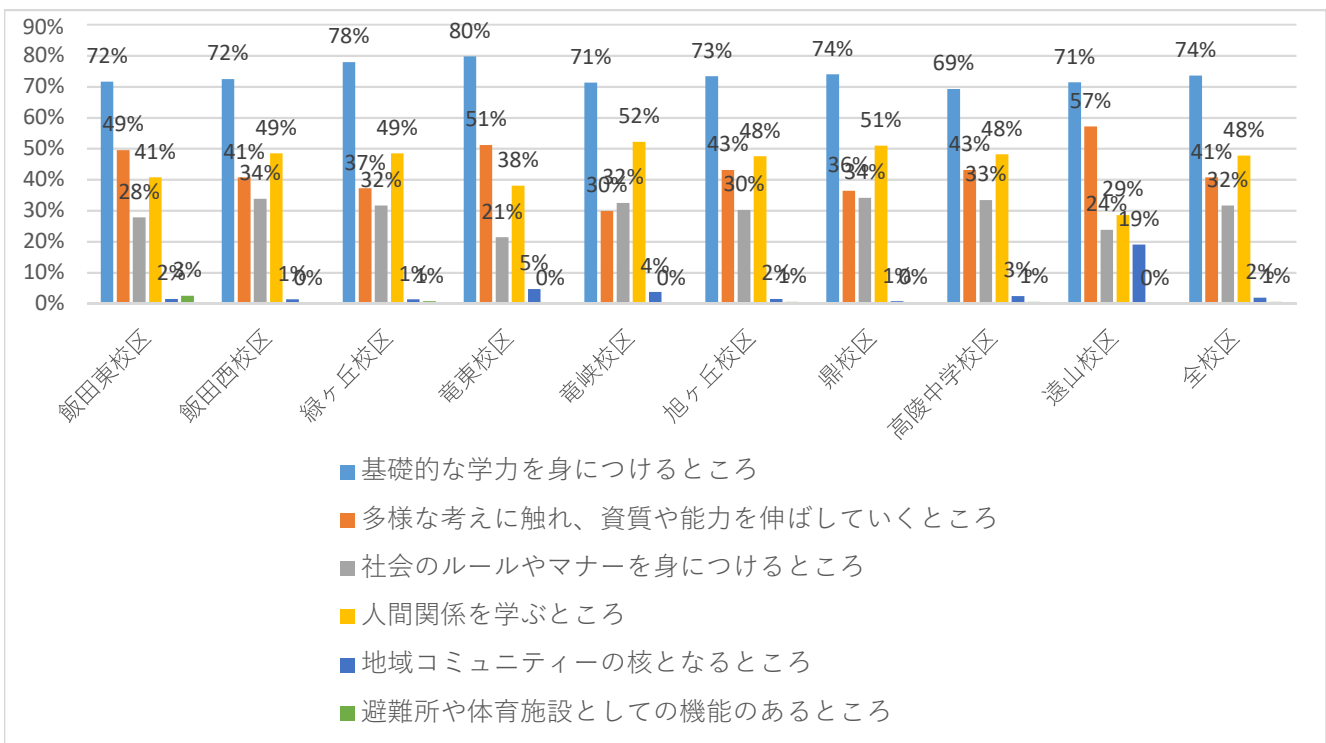
■小規模校（複式）では「多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」が2番目に多く、「人間関係を学ぶところ」が3番目となっている。他の規模では「人間関係」が2番目、「多様な考え」が3番目となっている。

分析 2 : 中学校規模別回答



■ 学校規模による大きな違いは見られないが、「社会のルールやマナーを身につける場所」の割合は小規模校が少なくなっている。

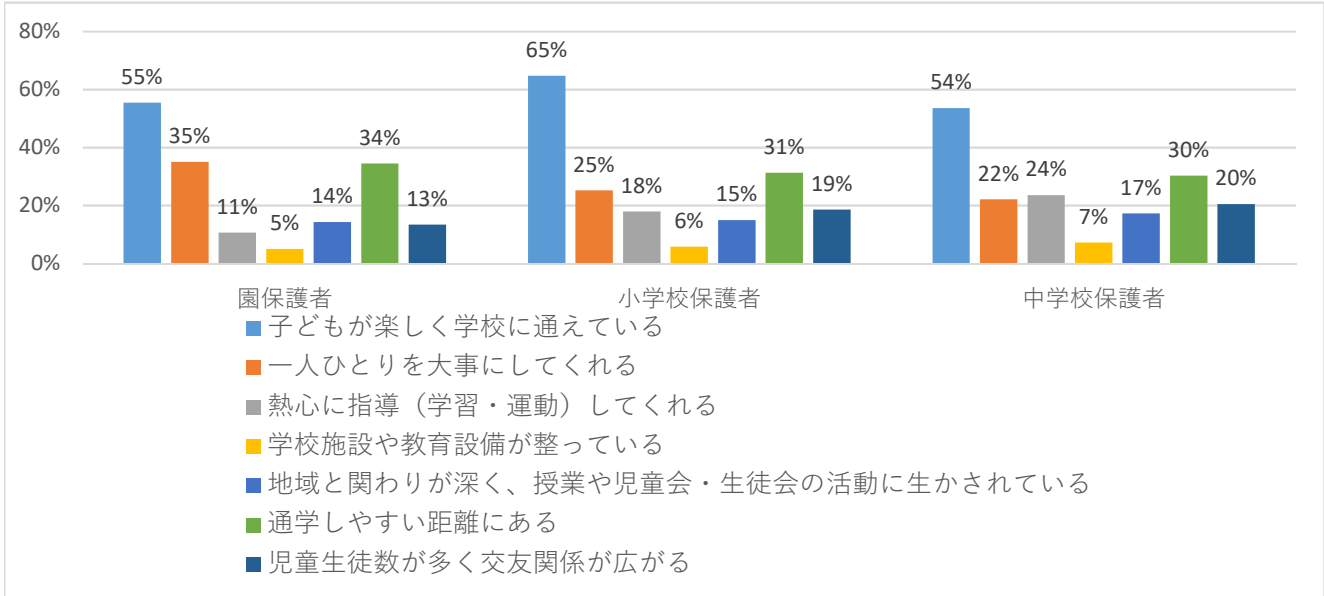
分析 3 : 中学校区別回答



■ 中学校区によって大きな違いは見られないが、遠山中学校区では「地域コミュニティの核になる場所」という回答が20%近くを占めている。他の中学校区は2～5%以下となっている。

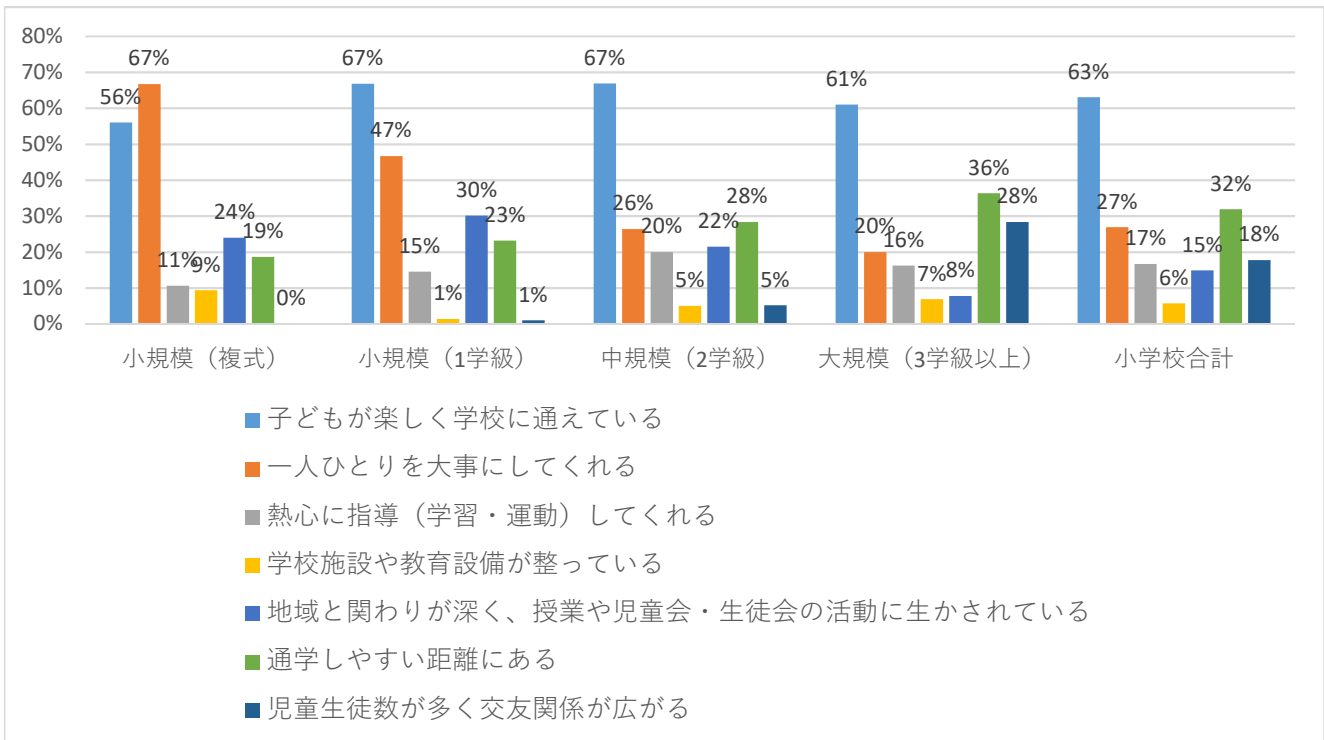
Q2：お子さんの通う学校の魅力はどのようなことだと思いますか？（上位2つまで選択可能）

分析1：校種別回答



■園では「一人一人を大切にしてくれる」「通学しやすい距離にある」がほぼ同数、小学校と中学校では後者の方が若干多く2番目を占めている。

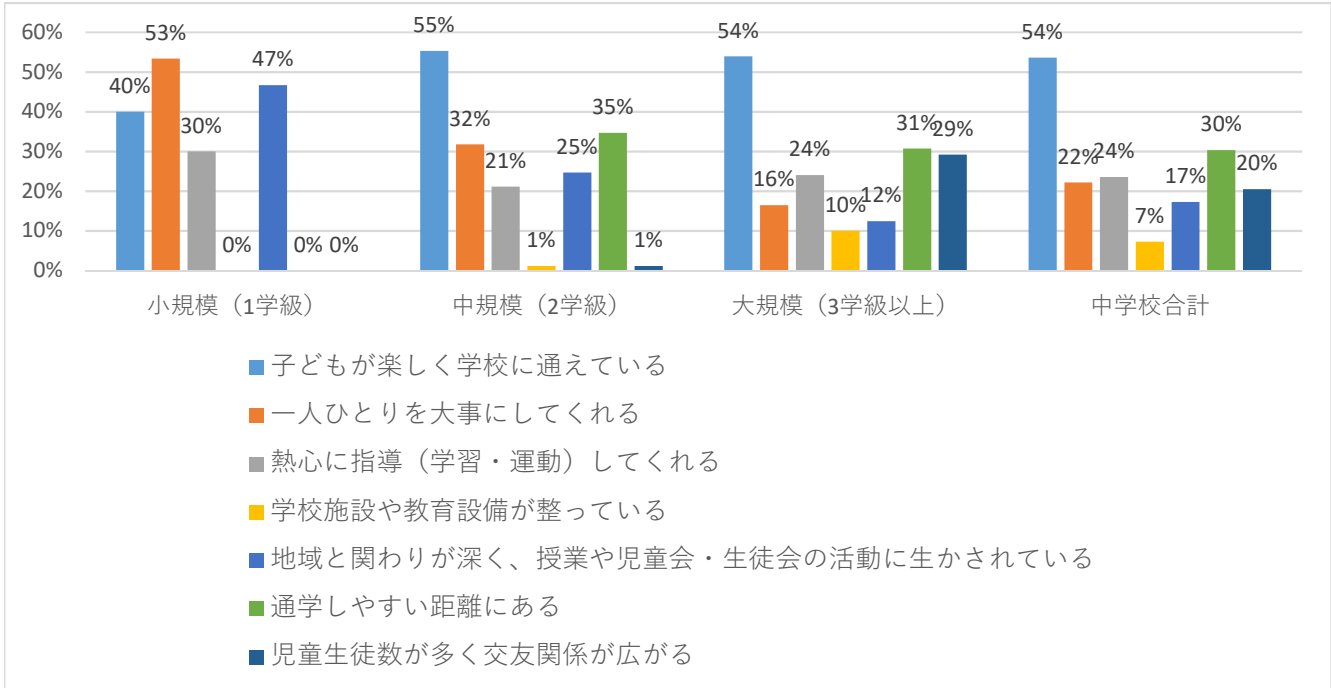
分析2：小学校規模別回答



■「一人一人を大切にしてくれる」について、小規模校（複式）は67%、小規模（1学級）は47%、中規模（2学級）大規模（3学級以上）は20数%というように、規模が小さいほど大きくなっている。

■逆に「通学しやすい距離にある」は規模が大きくなるほど占める割合が高くなっていて、大規模校は36%を占めている。

分析 2 : 中学校規模別回答



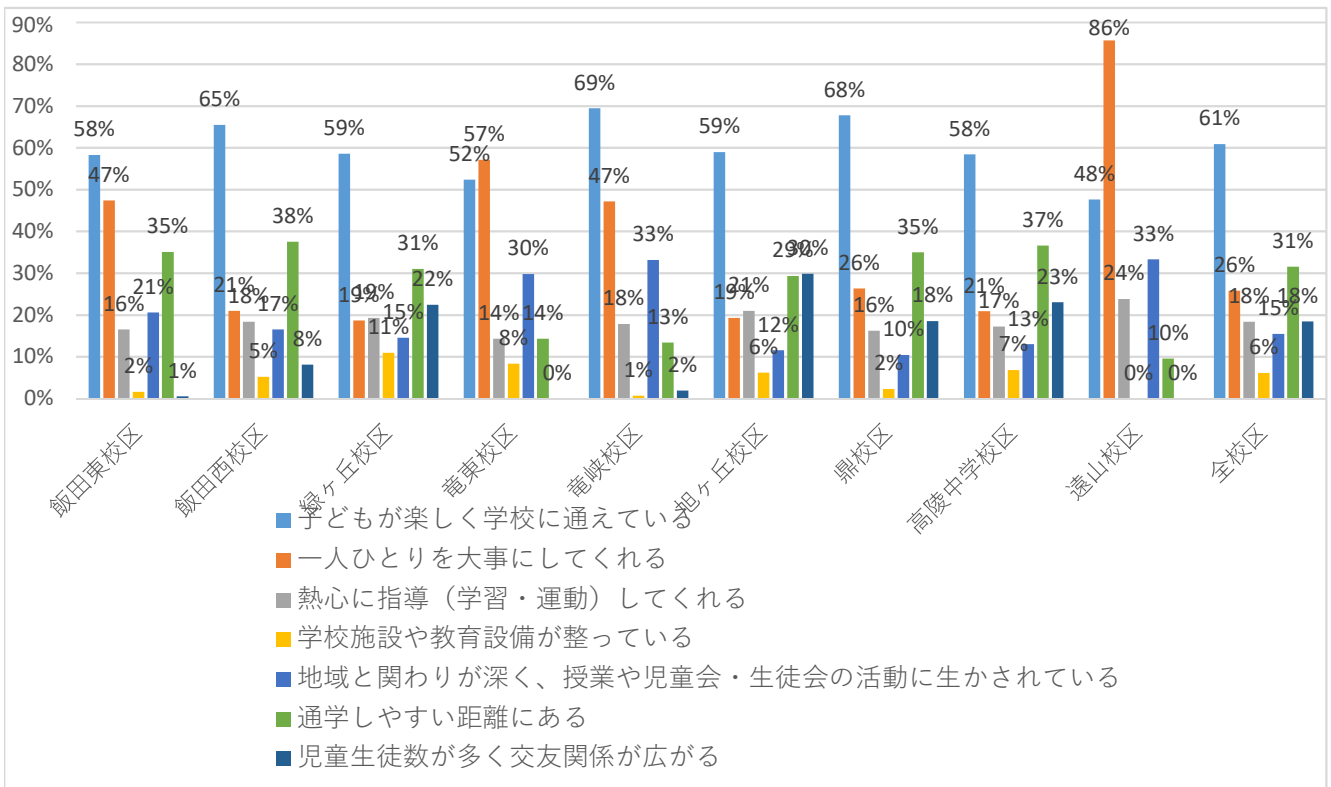
■ 小規模では「通学しやすい距離にある」という回答がない。

■ 「一人一人を大事にしてくれる」の占める割合は学校規模が大きくなるに従って減少している。

■ 「学校施設や教育設備が整っている」という回答は大規模校での比率が高い。中規模校では2人、小規模校では回答がなかった。

■ 「児童生徒が多く、交友関係が広がる」という回答は大規模校で30%程度を占め、中規模校は2人のみ、小規模校では回答がなかった。

分析 3 : 中学校区別回答



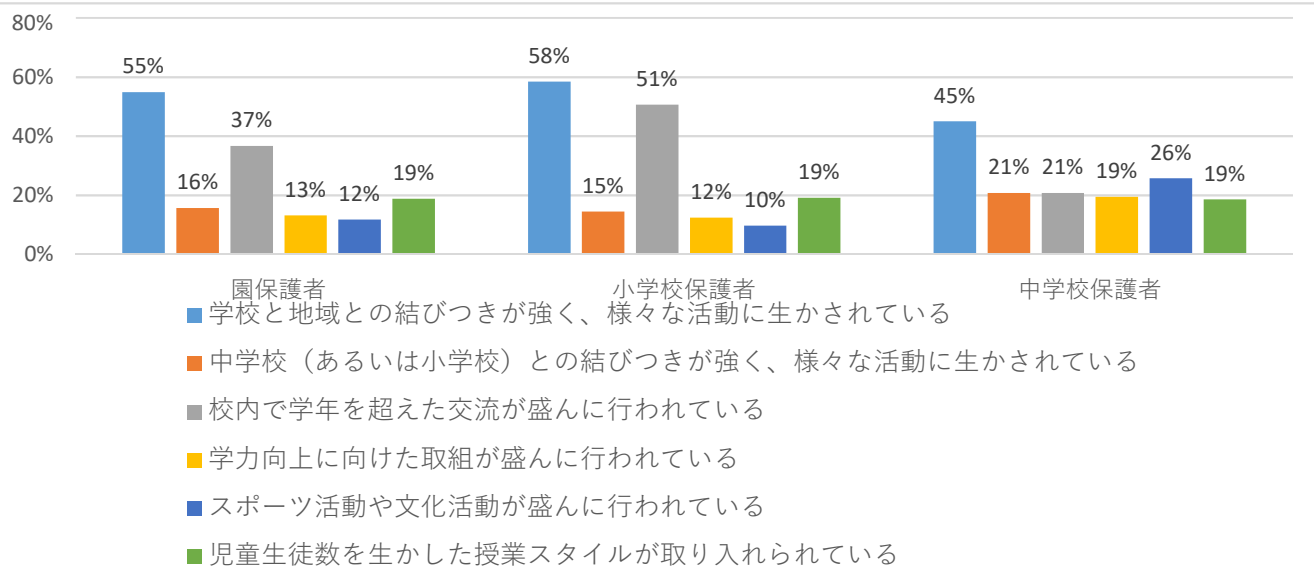
■ 遠山中学校区、竜東中学校区、竜峡中学校区、飯田東中学校区で「一人ひとりを大事にしてくれる」の割合が他の校区に比べ高い。

■ 竜東中学校区、竜峡中学校区、遠山中学校区では「通学しやすい～」の割合が低い。

■ 「児童生徒数が多く交友関係が広がる」は緑ヶ丘中学校区、旭ヶ丘中学校区、鼎中学校区、高陵中学校区で20%～30%を占めている。

Q3：お子さんの通う学校の特徴は何だと思いますか？（3つまで選択可能）

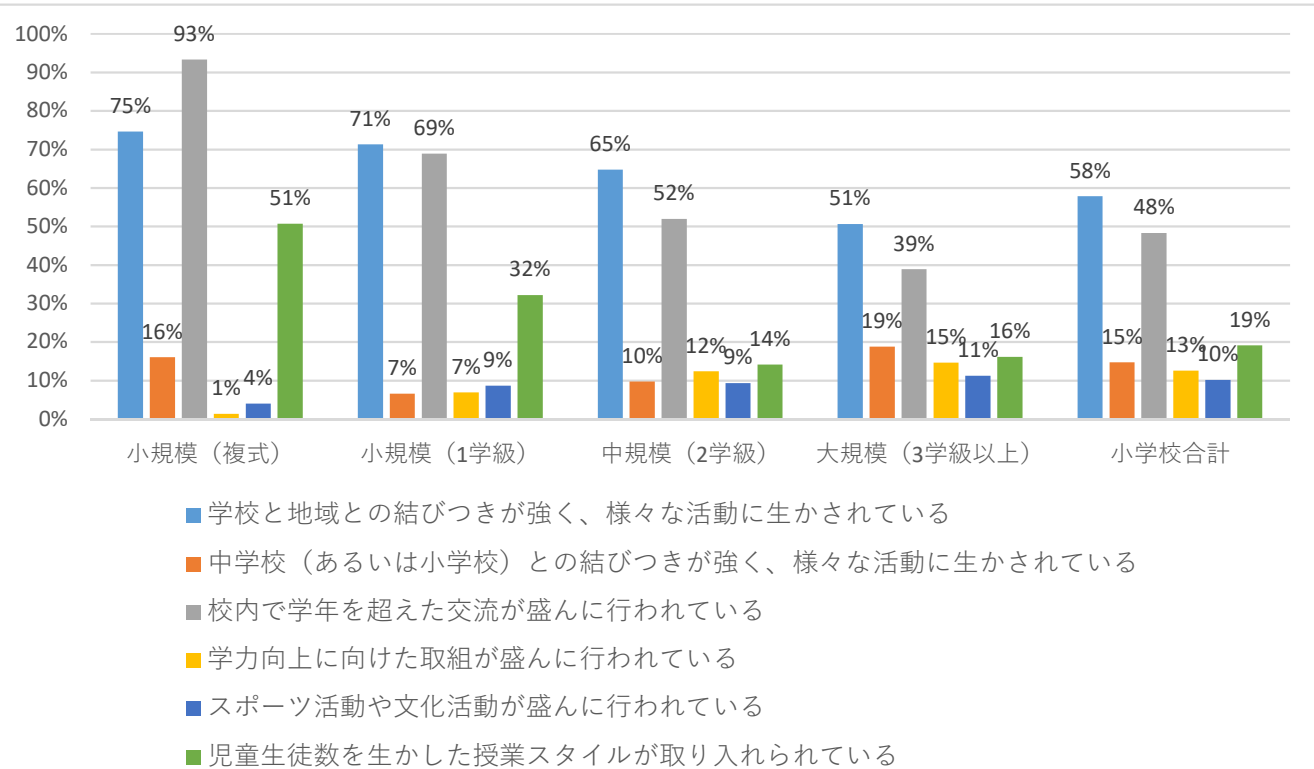
分析1：校種別回答



■いずれも「学校と地域の結びつきが強く、様々な活動に生かされている」が最も多いが、中学校はその比率が園と小学校に比べてやや低い。

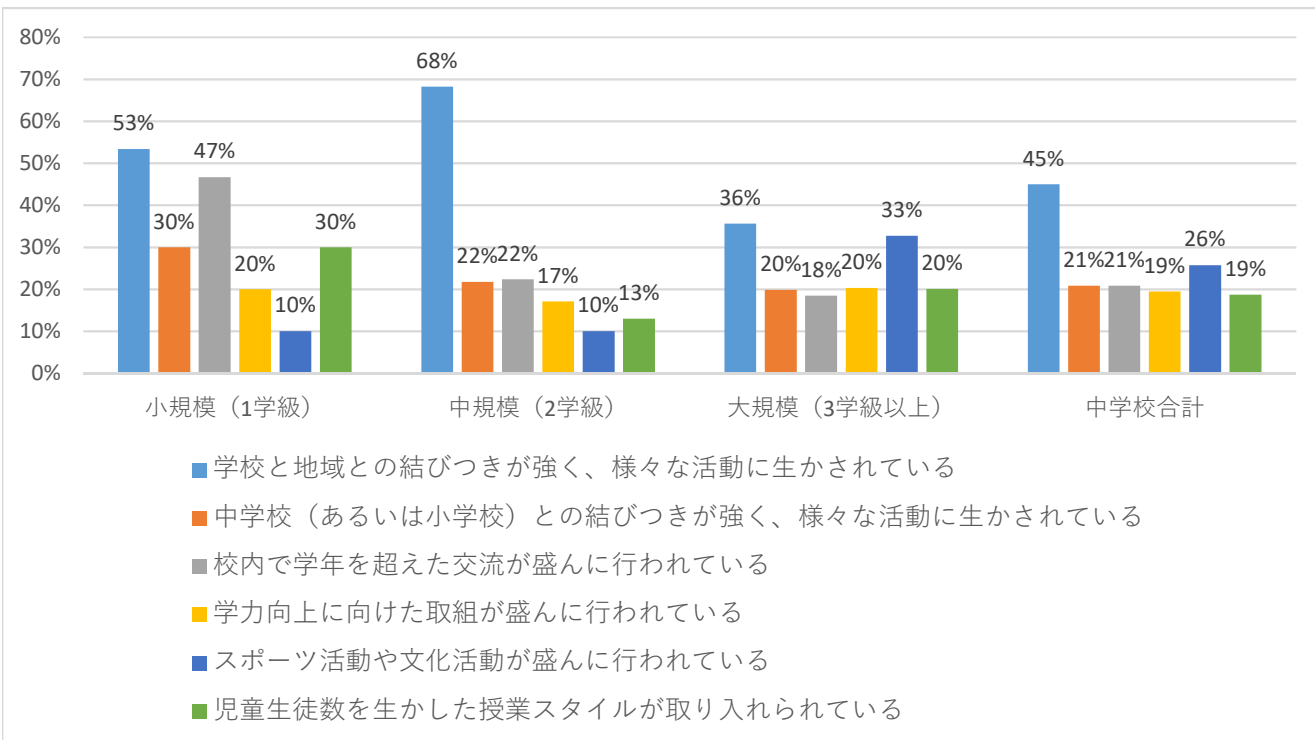
■園と小学校では「校内で学年を超えた交流が盛んに行われている」が、中学校では「スポーツ活動や文化活動が盛んに行われている」が2番目に多くなっている。

分析2：小学校規模別回答



■小規模校（複式）では「校内で学年を超えた交流が盛んに行われている」が最も高く、2番目が「学校と地域」 「学年を超えた交流」の順となっている。

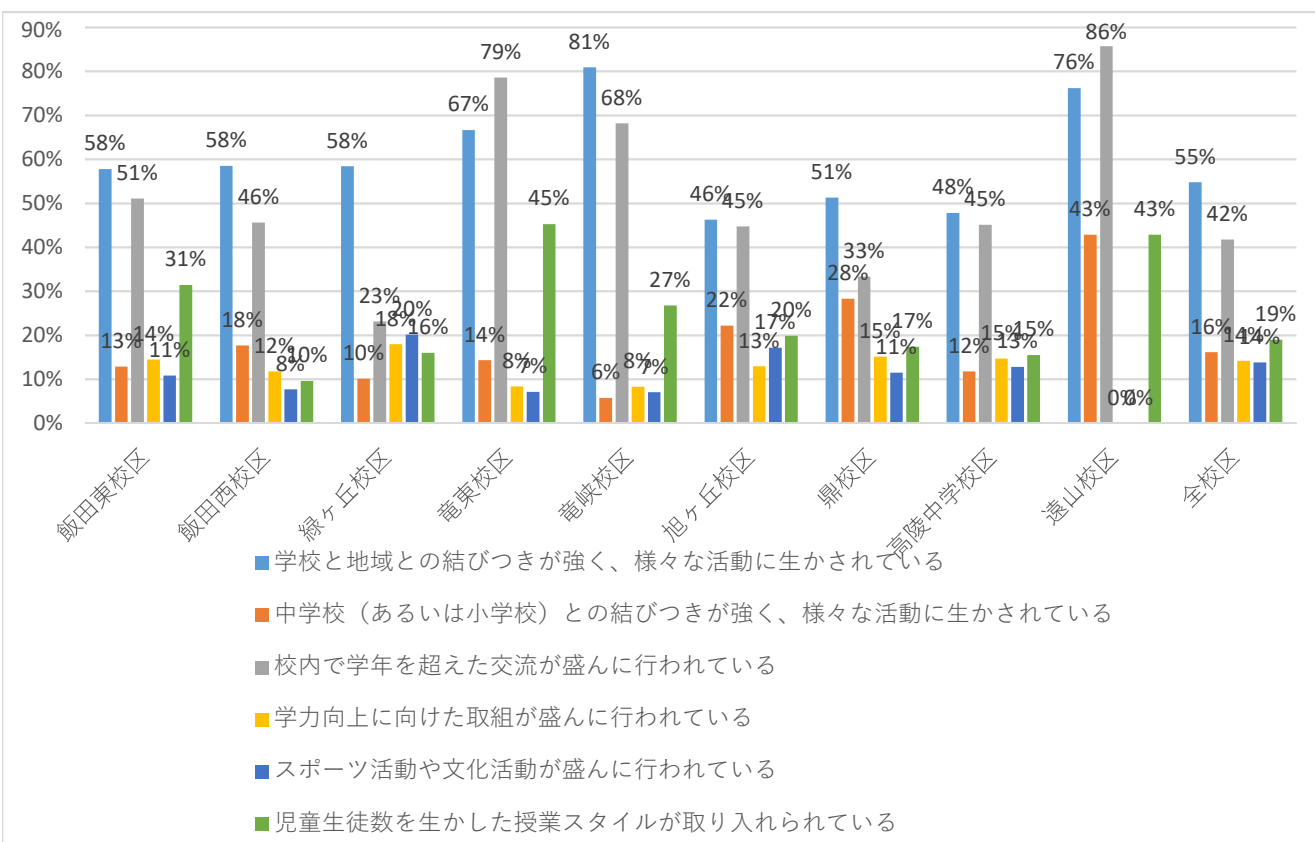
分析 2 : 中学校規模別回答



■「学校と地域の結びつきが強く、様々な活動に生かされている」の割合は、中規模校が最も高く、大規模校が最も低く36%となっている。

■「スポーツ活動や文化活動が盛んに行われている」は大規模校の割合が高くなっている。

分析 3 : 中学校区別回答

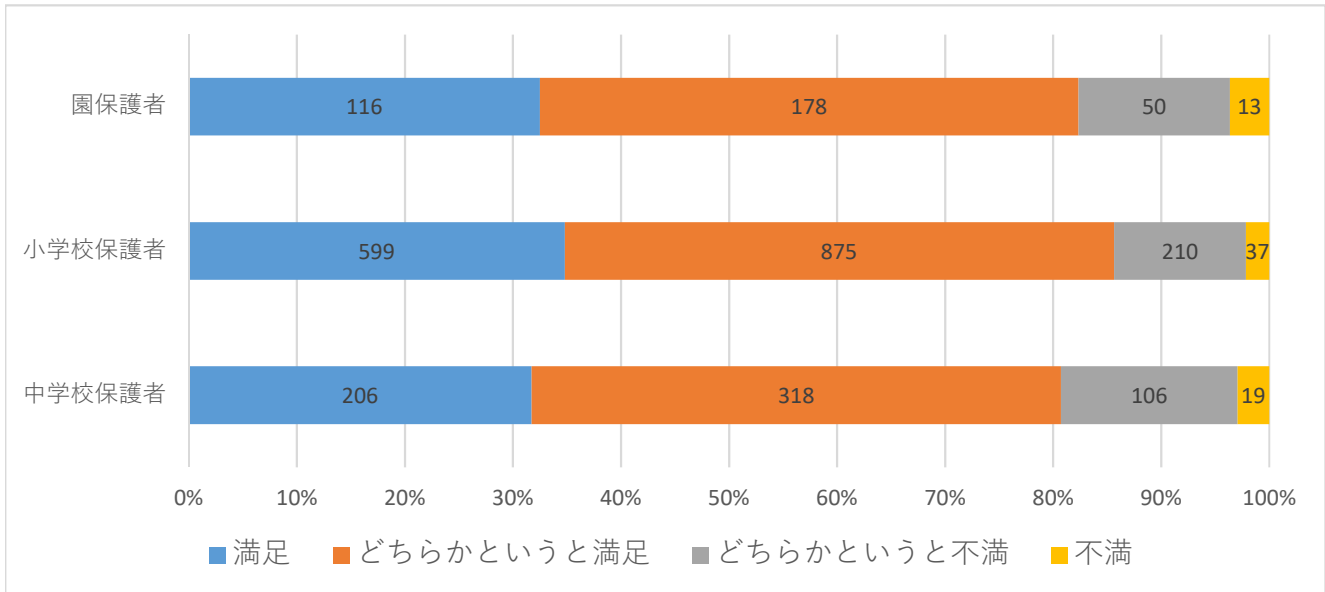


■それぞれの中学校区によって比率は違うが、どの中学校区も「学校と地域の結びつきが強く、様々な活動に生かされている」「校内で学年を超えた交流が盛んに行われている」の比率が高い。

■遠山中学校区では「学力向上に向けた取組が盛んに行われている」「スポーツ活動や文化活動が盛んに行われている」の回答がなく、竜東中学校区、竜峡中学校区ではそれぞれ8%以下となっている。

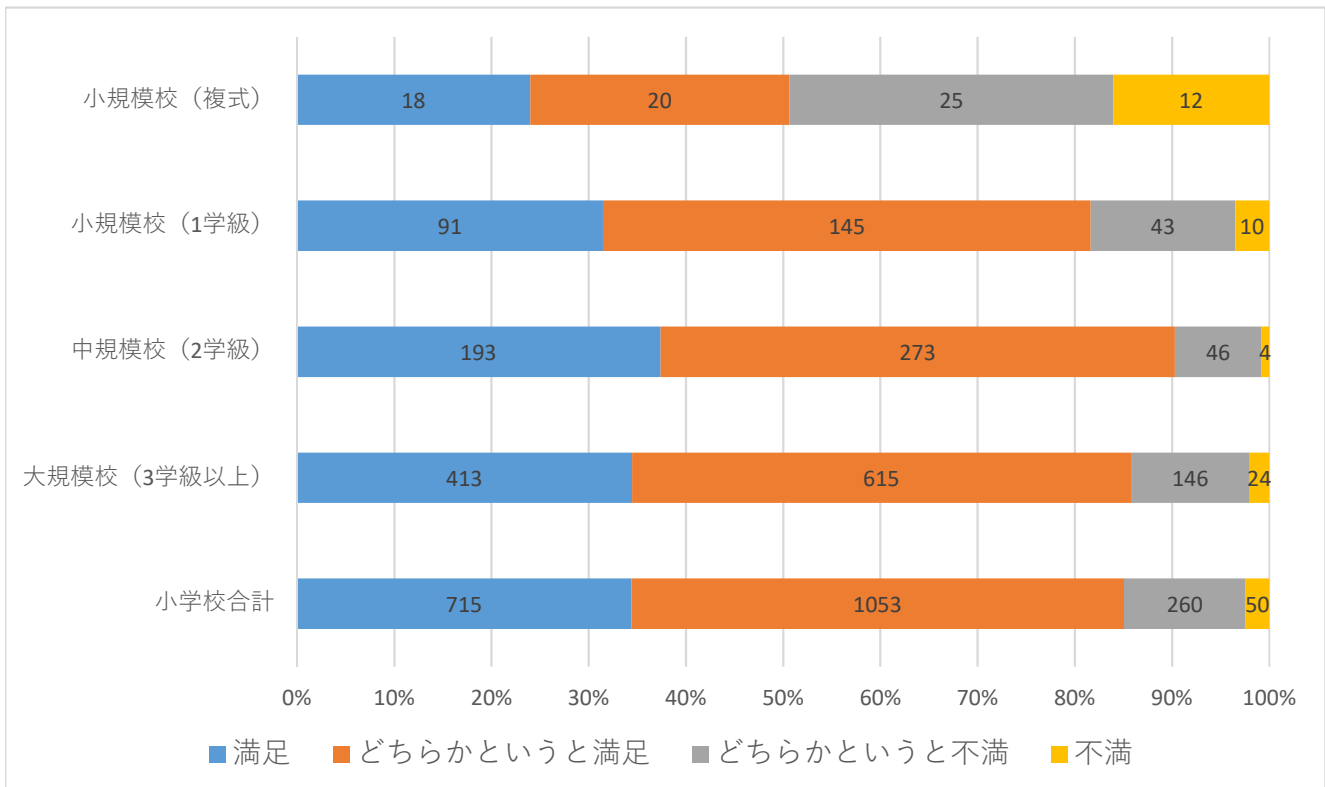
Q4：お子さんが通う学校の学校規模（1校あたりの児童生徒数）に満足していますか？

分析1：校種別回答



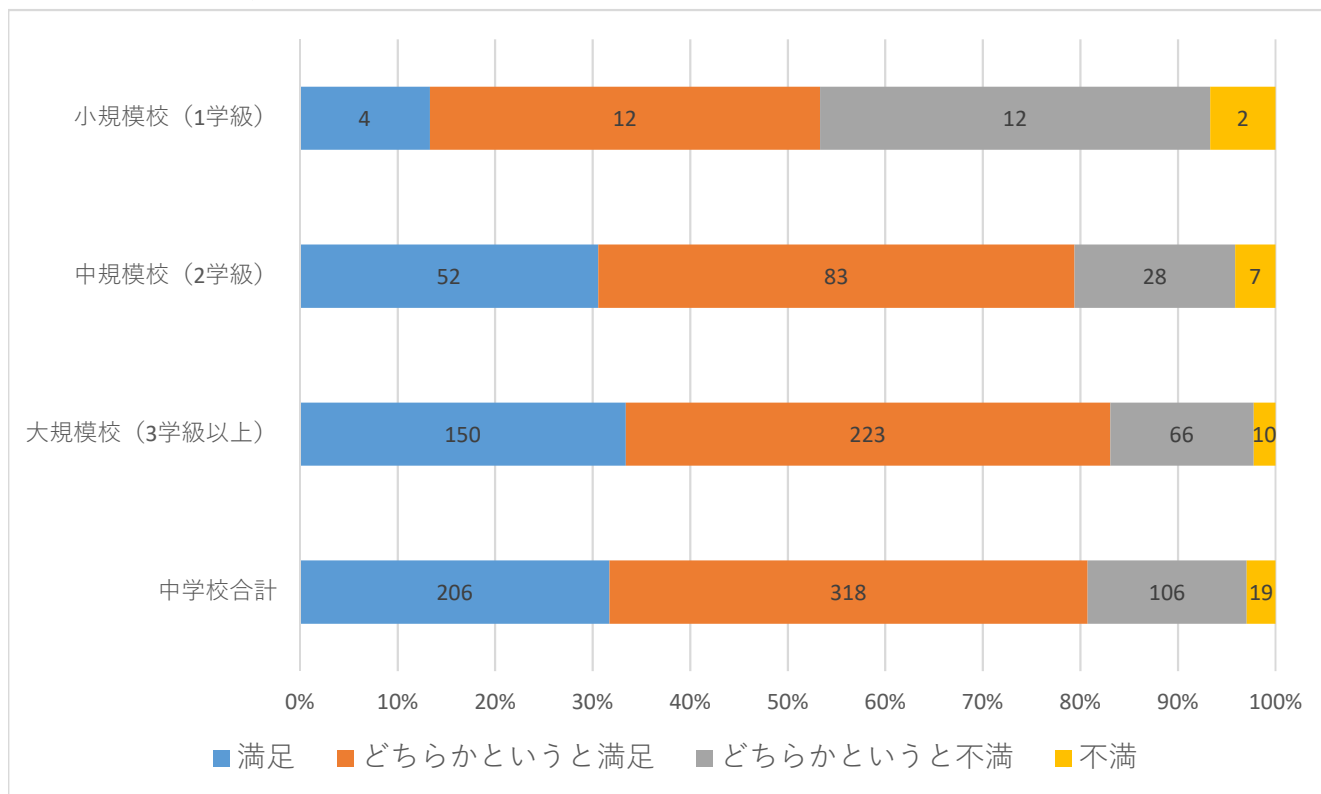
■いずれも「どちらかという満足」が約50%、「満足」が約30%を占めている。

分析2：小学校規模別回答



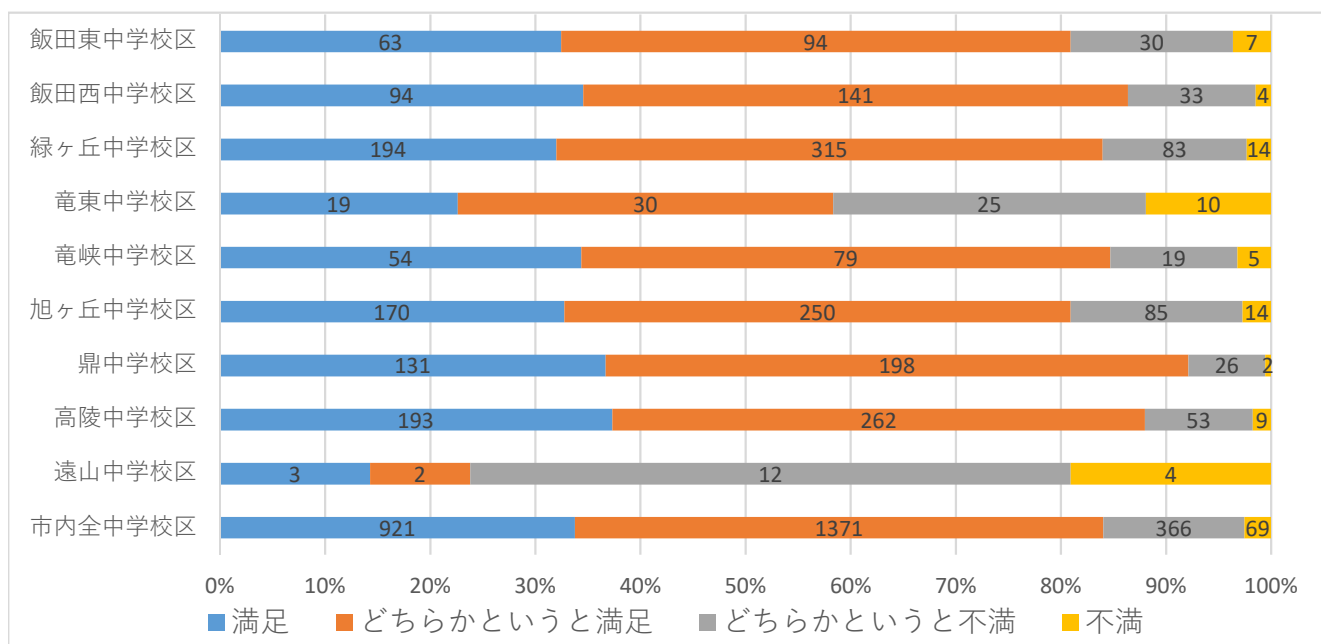
■小規模（1学級）、中規模、大規模とも同じ傾向を示し「満足」「どちらかという満足」が80%以上を占めるが、小規模（複式）では「不満」「どちらかという不満」が50%近くを占めている。

分析 2 : 中学校規模別回答



■小規模校では「不満」「どちらかという不満」が47%を占めているが、中規模校、大規模校では「満足」「おおよそ満足」がおおよそ80%を占めている。

分析 3 : 中学校区別回答

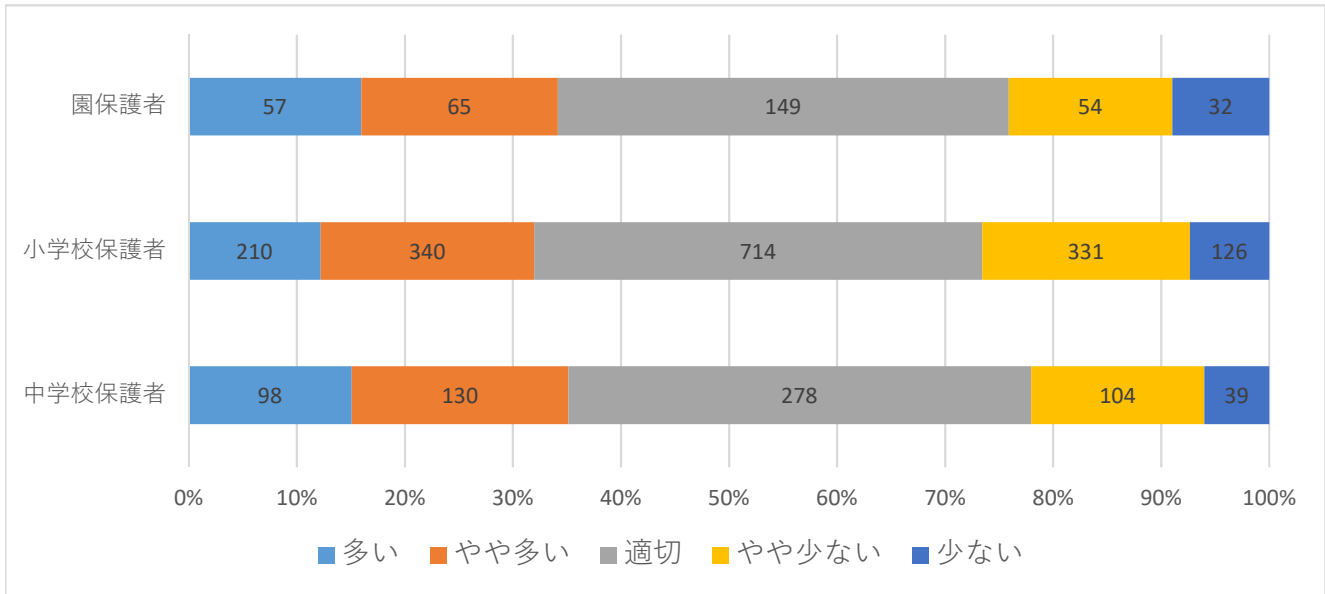


■遠山中学校区は「不満」「どちらかという不満」が75%を超え、竜東中学校区は42%を占めている。

■他の中学校区は「満足」「どちらかという満足」が80%~90%近くを占めている。

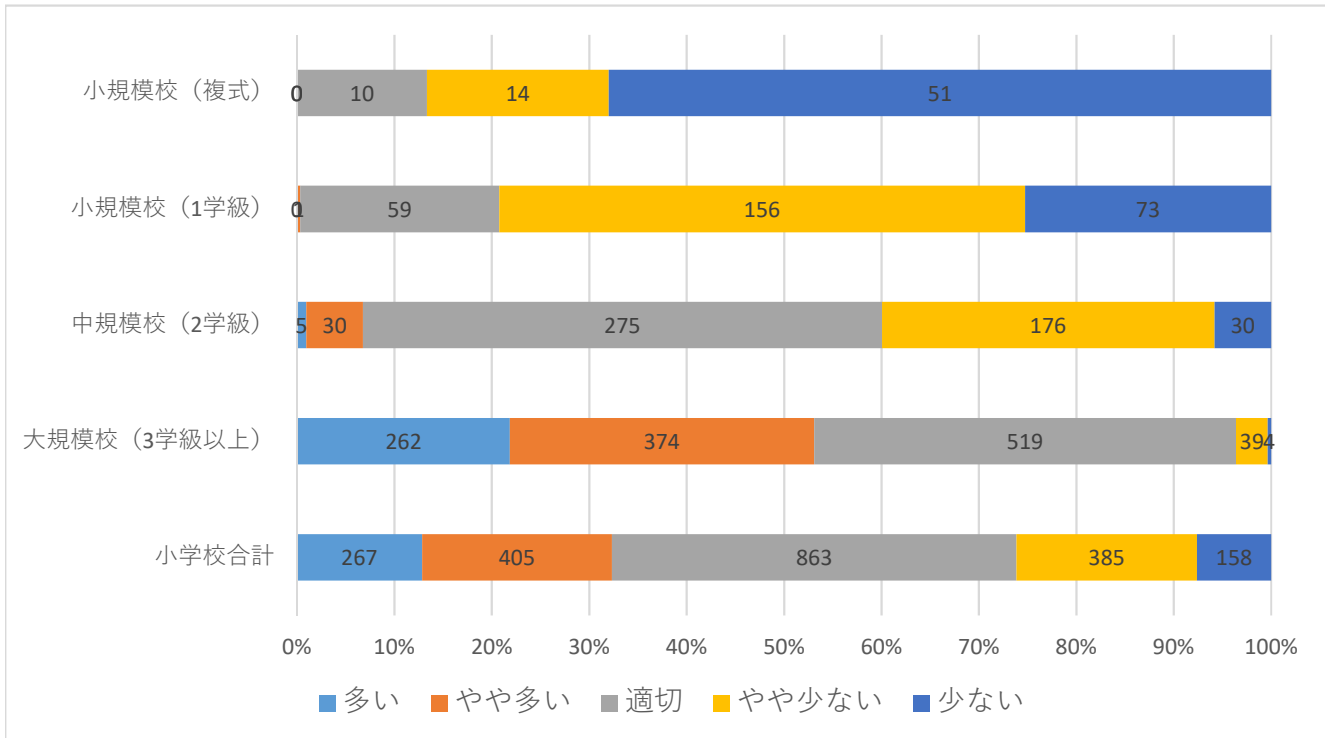
Q5：お子さんが通う学校の児童生徒数についてどのように思われますか？

分析1：校種別回答



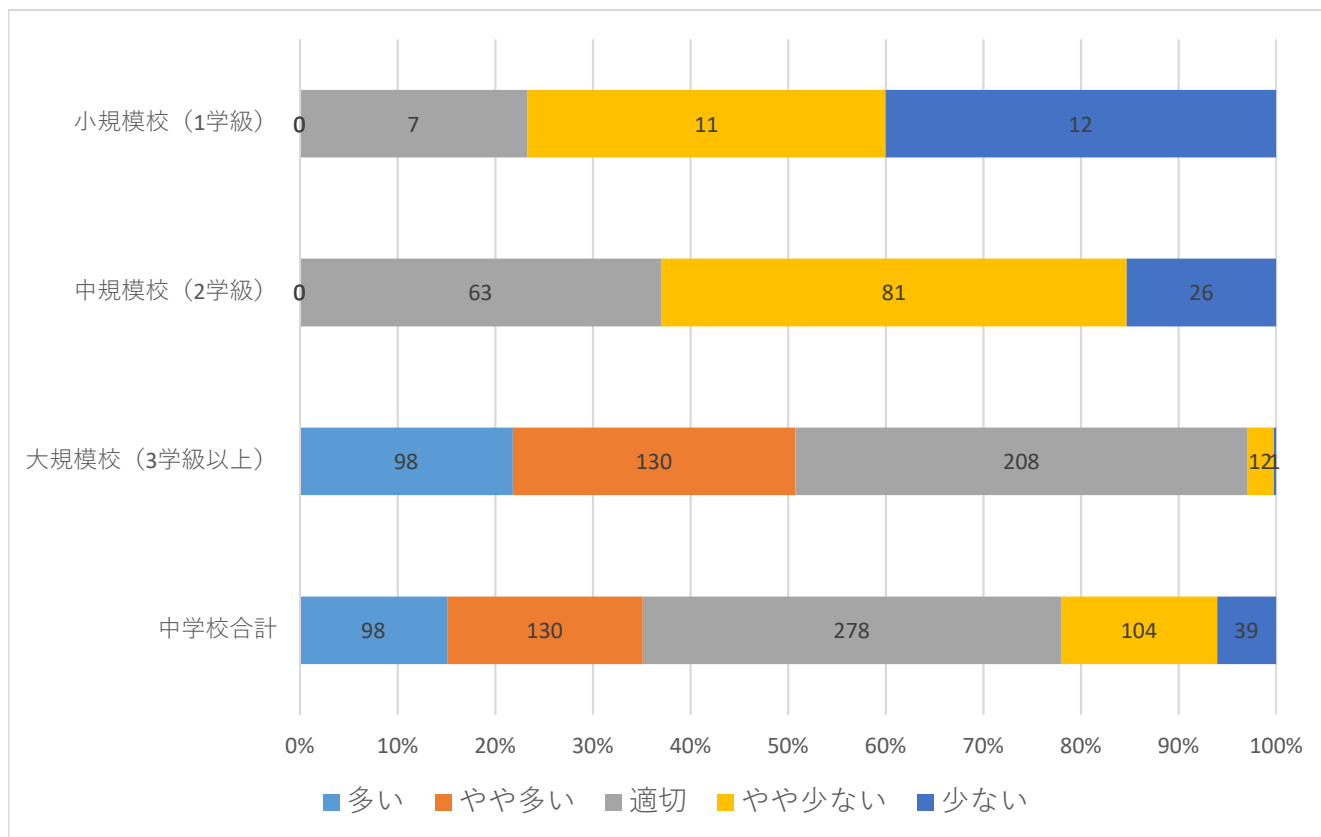
■いずれも「適切」が約40%、「やや多い」「やや少ない」が約20%ずつを占めている。

分析2：小学校規模別回答



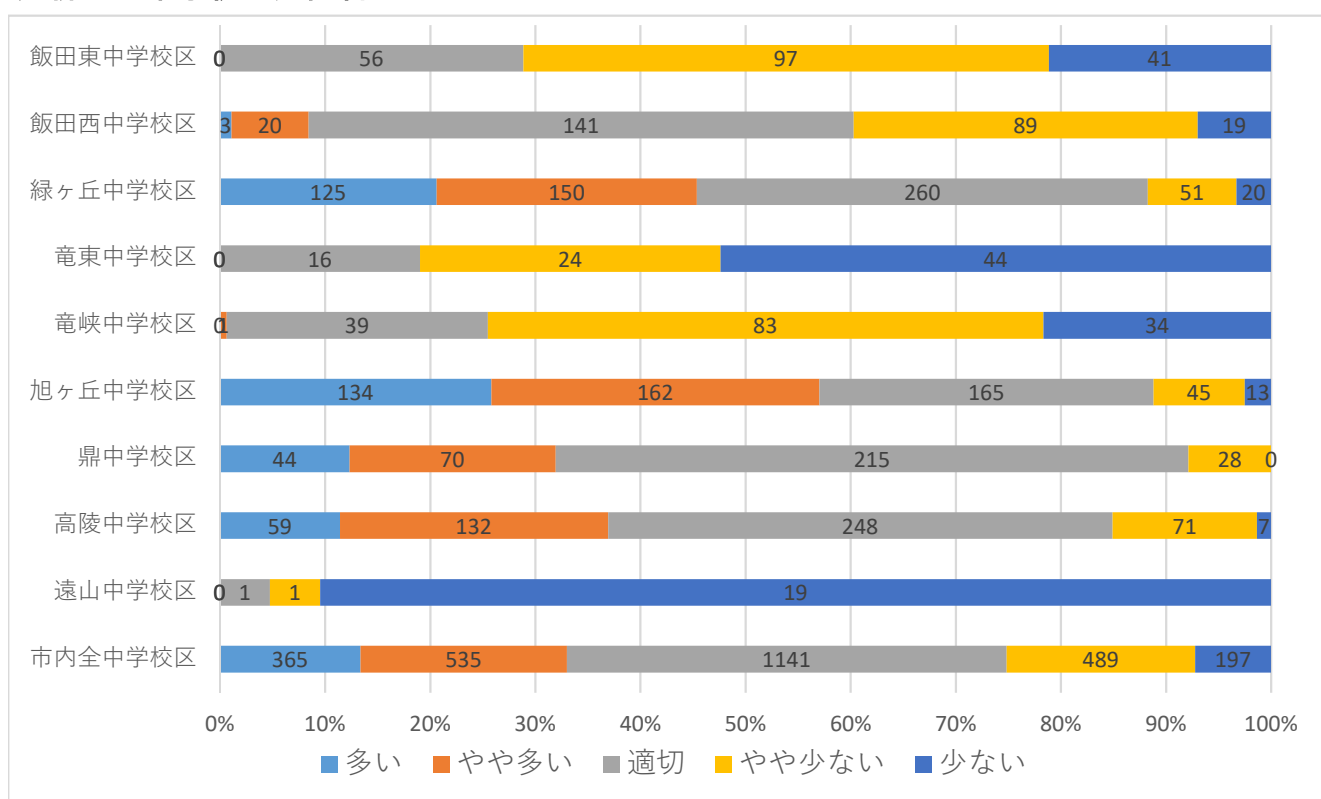
■小規模(複式)は「少ない」が約70%を、小規模(1学級)は「やや少ない」が54%を、中規模(2学級)では「適切」が53%を、大規模(3学級以上)では「多い」「やや多い」が53%を占めている。

分析 2 : 中学校規模別回答



- 小規模校は「少ない」が40%、「やや少ない」が36%を占め、中規模校では「少ない」が15%、「やや少ない」が48%を占めている。
- 大規模校では「多い」「やや多い」と「適切」がおおよそ半数ずつを占めている。

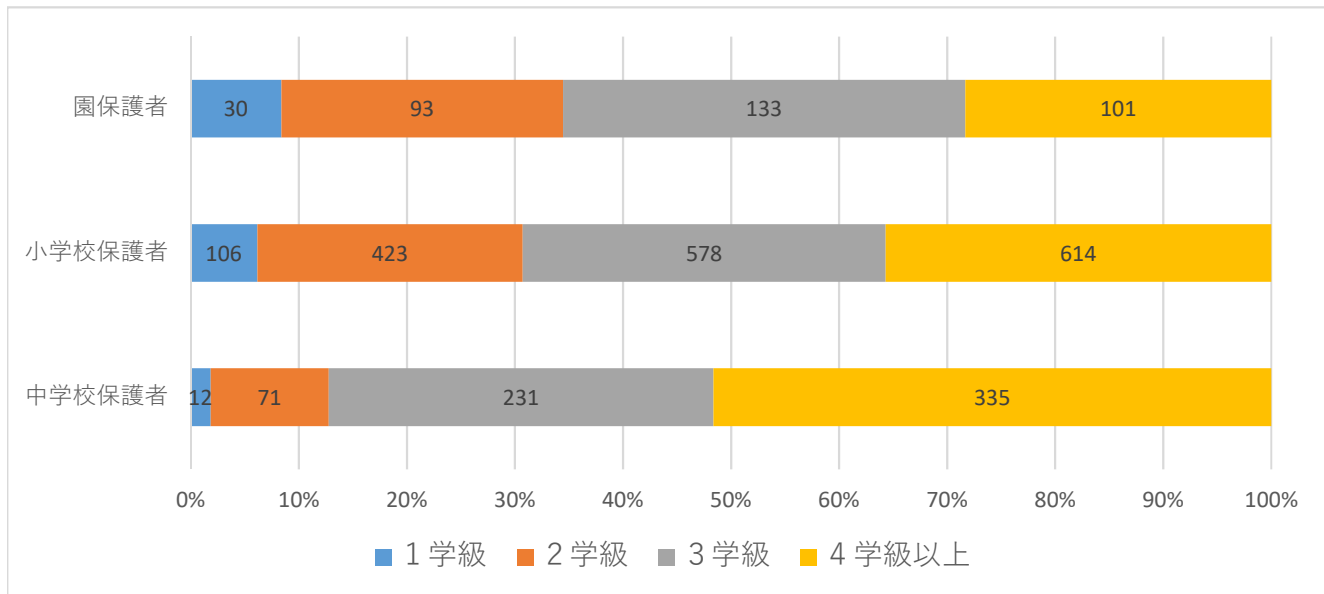
分析 3 : 中学校区別回答



- 「少ない」「やや少ない」が70%を超えているのは、遠山中学校区、竜東中学校区、竜峡中学校区、飯田東中学校区である。
- 旭ヶ丘中学校区は「多い」「やや多い」が50%を超えている。

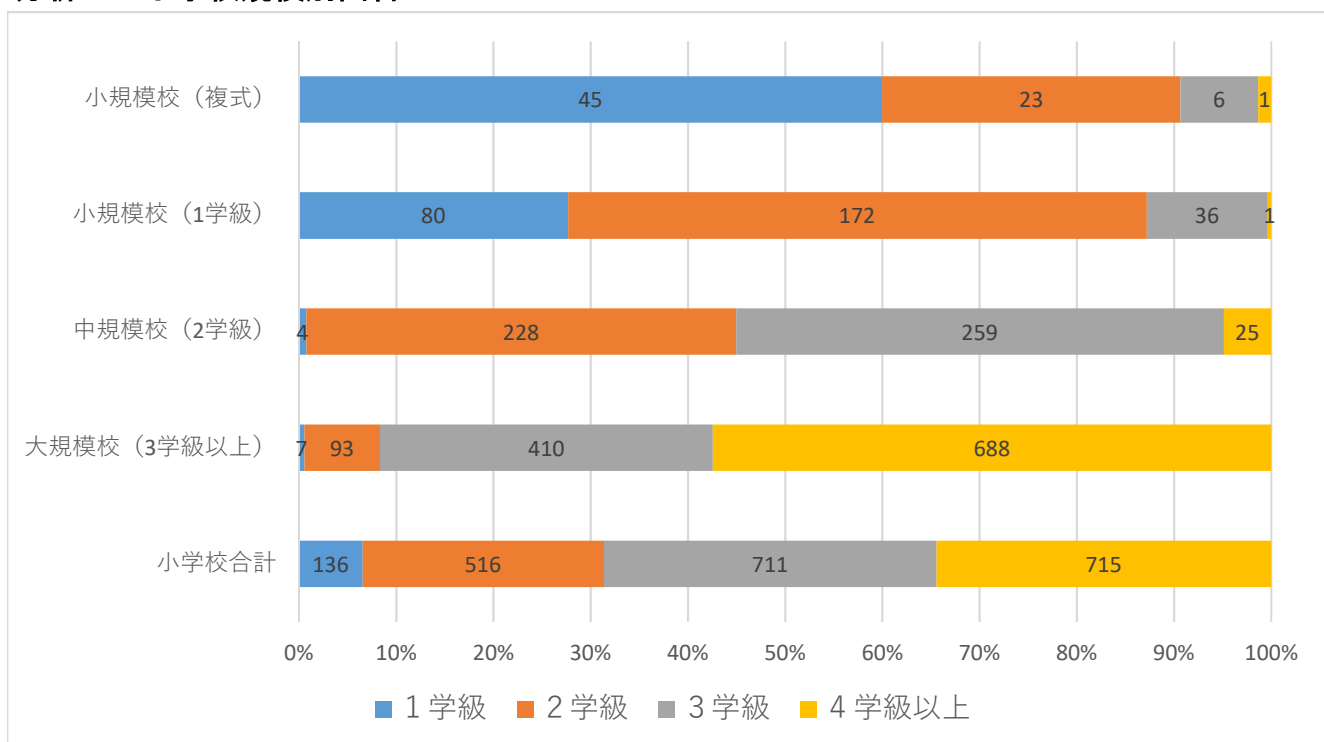
Q6：1学年あたりの学級数はどのくらいが良いと思いますか？

分析1：校種別回答



■園は「3学級」「4学級以上」「2学級」の順。小学校は「4学級以上」「3学級」「2学級」、中学校は「4学級以上」が50%以上、「3学級」が40%近くを占めている。

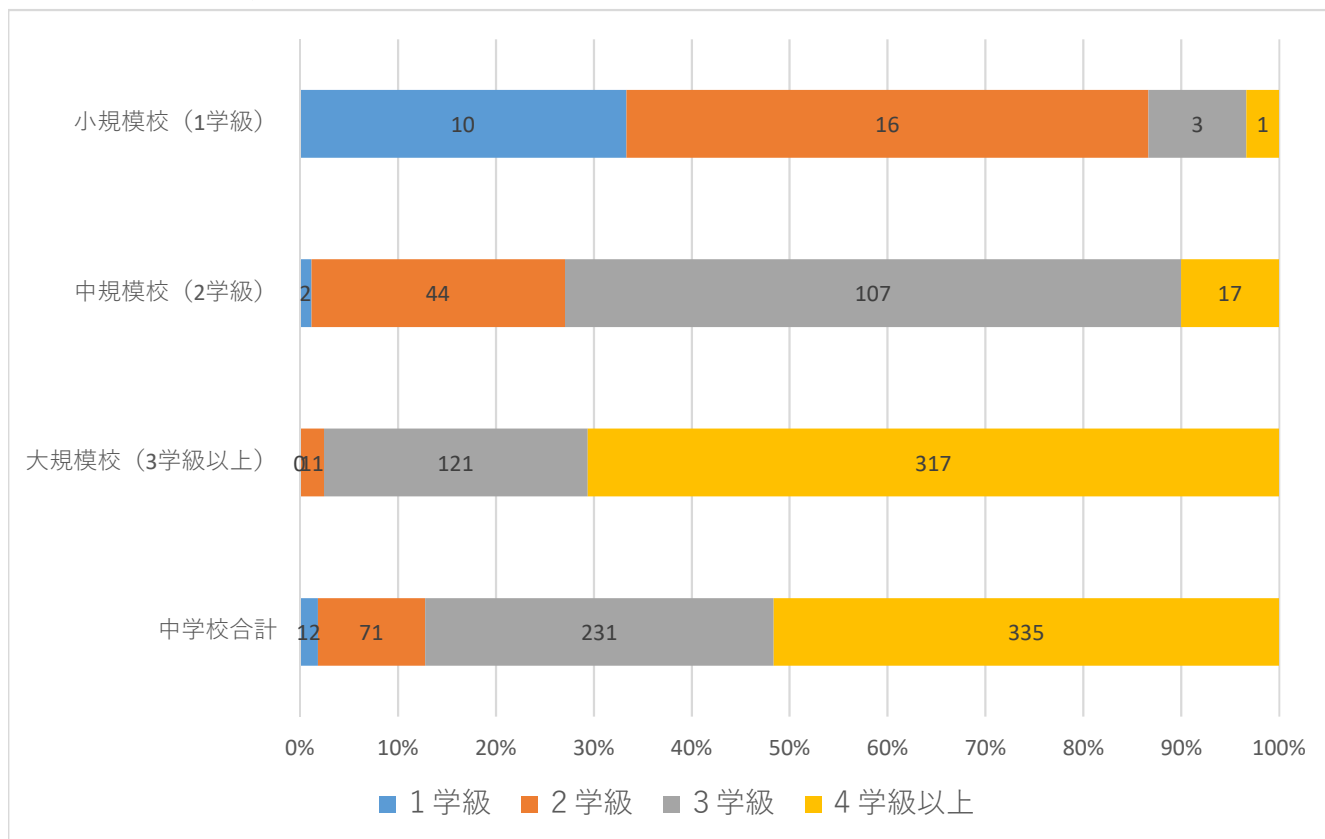
分析2：小学校規模別回答



■小規模（複式）は「1学級」が60%を、小規模（1学級）では「2学級」が60%を占めており、現在の規模と同じか1学級程度多い学校規模を望んでいると考えられる。

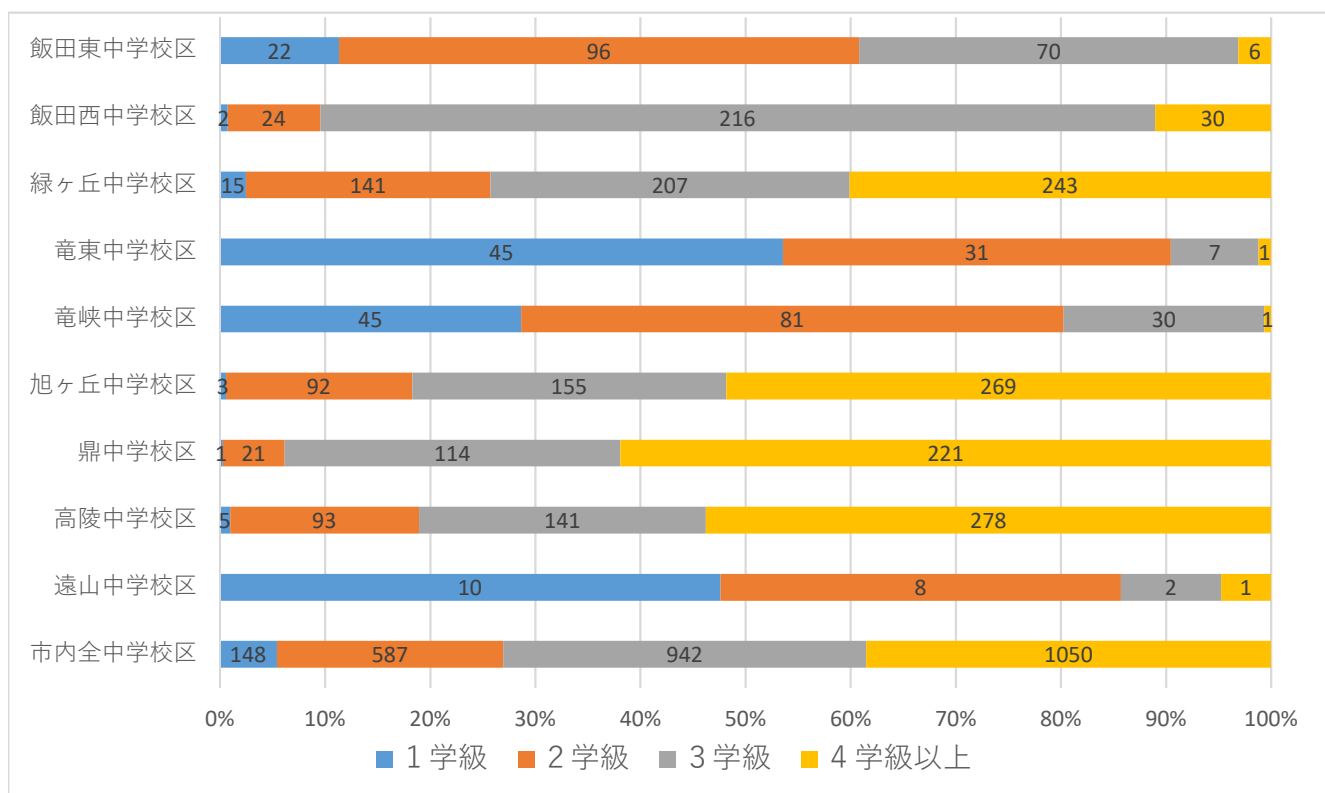
■中規模（2学級）では「2学級」「3学級」で90%以上を、大規模（3学級以上）では「3学級」「4学級以上」が90%以上を占め、現状に満足していると考えられる。

分析 2 : 中学校規模別回答



■小規模校では「2学級」が、中規模校では「3学級」が占める割合が最も高く、現在と同じか現在よりも1学級多い学級数が良いと考えている保護者が多い。
 ■大規模校では「4学級以上」が71%を、「3学級」が27%を占めている。

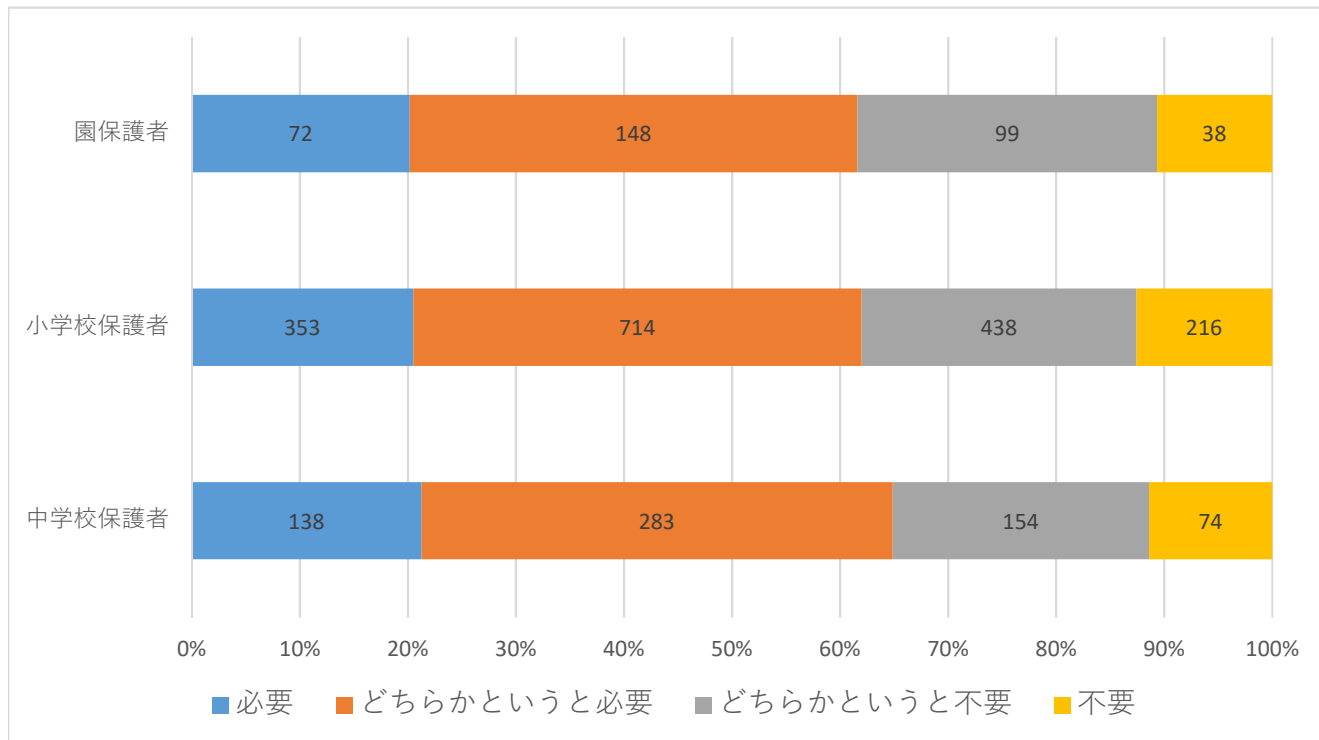
分析 3 : 中学校区別回答



■中学校区ごとに違いがみられる。様々な状況が影響を与えているものと考えられる。

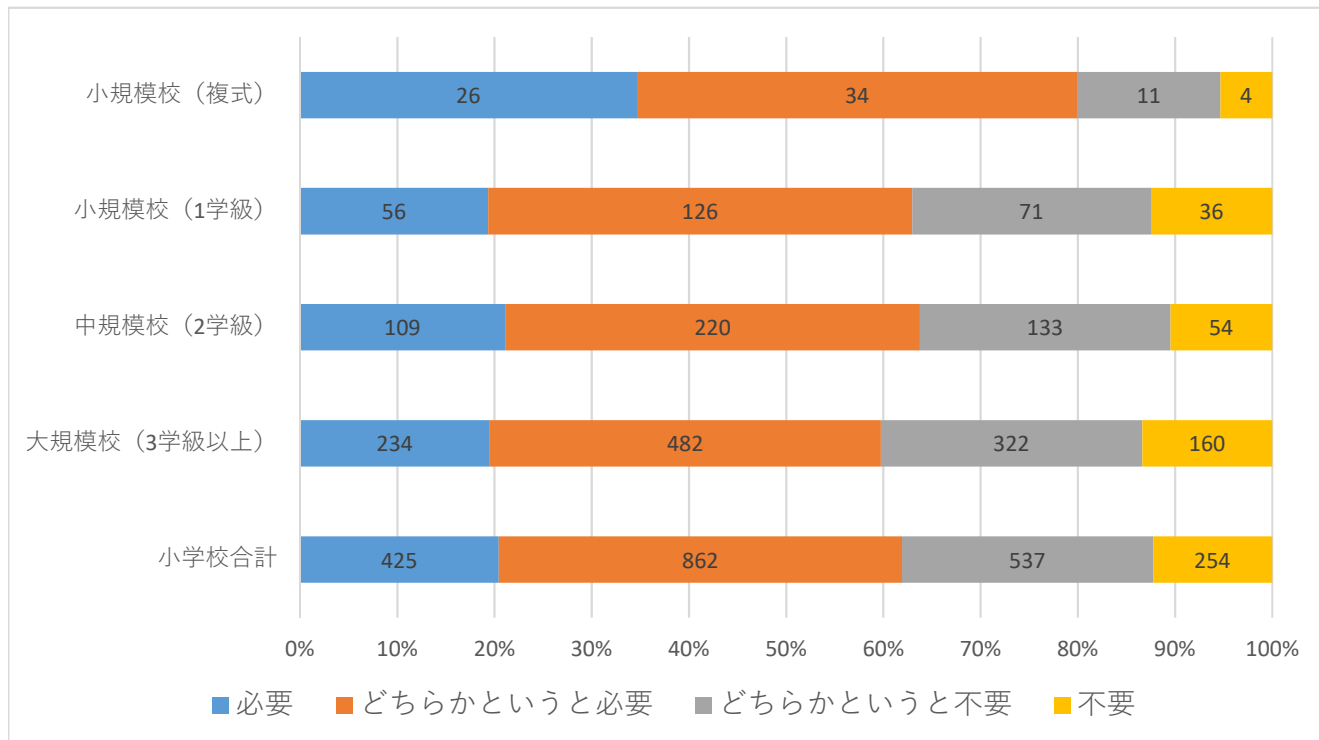
Q7：学校を取り巻く現状（少子化や施設の老朽化）に対応し、子どもたちの教育環境を充実するために学校の統合等は必要だと思いますか？

分析1：校種別回答



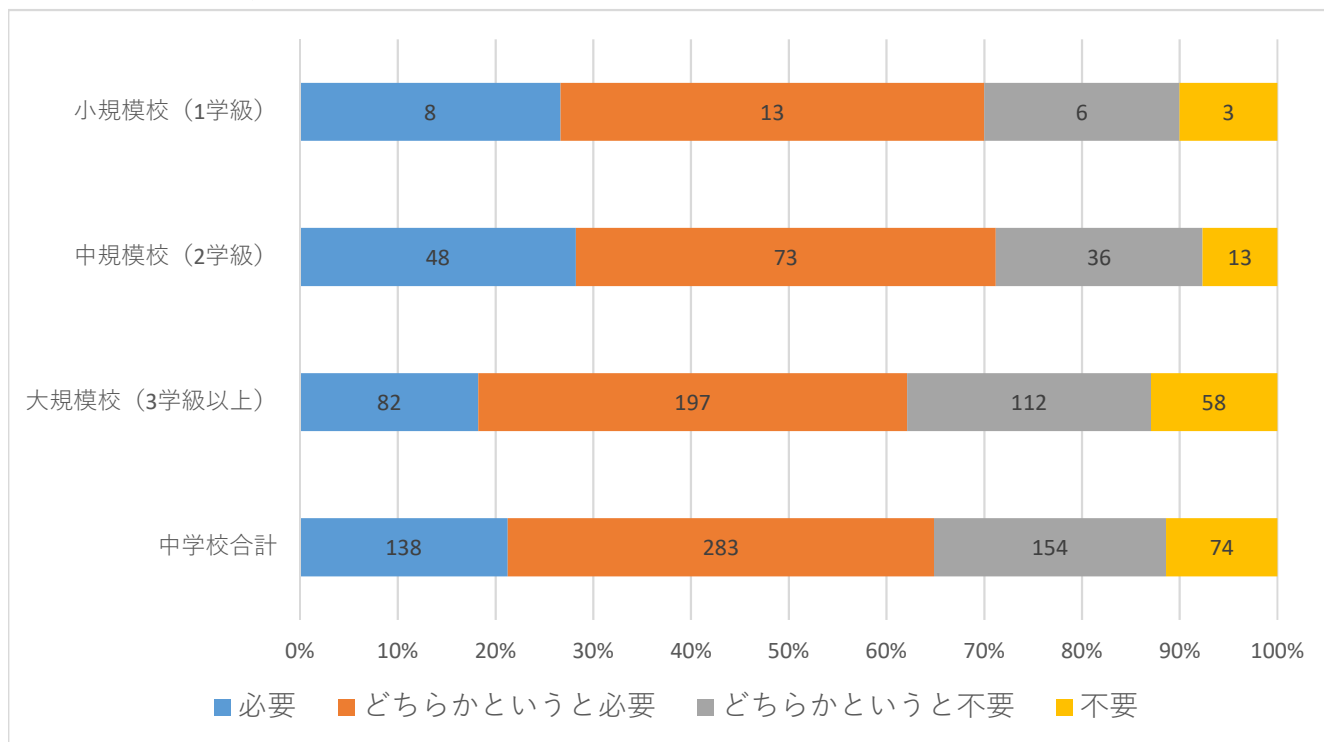
■校種による大きな違いは見られず、いずれも「必要」「どちらかという必要」を合わせて60%以上を占めている。

分析2：小学校規模別回答



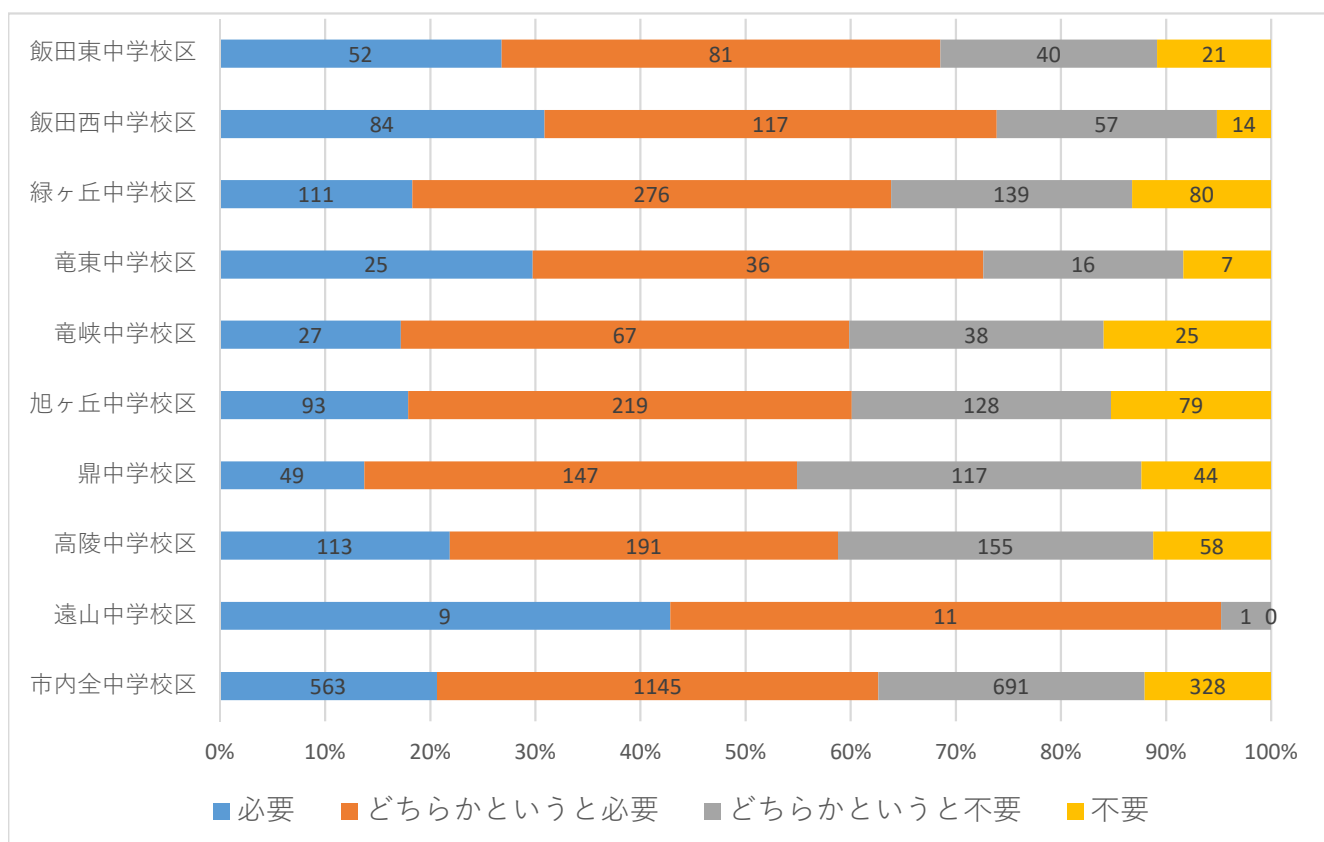
■小規模（複式）では「必要」「どちらかという必要」が80%を占めている。他の規模はほぼ同じ傾向を示し、「必要」「どちらかという必要」を合わせて60%近くを占めている。

分析 2 : 中学校規模別回答



■ 小規模校と中規模校では同じような傾向を示し、「必要」「どちらかという必要」が約70%を占めている。大規模校はそれぞれが占める割合は若干少なくなっているが、ほぼ同じような傾向を示している。

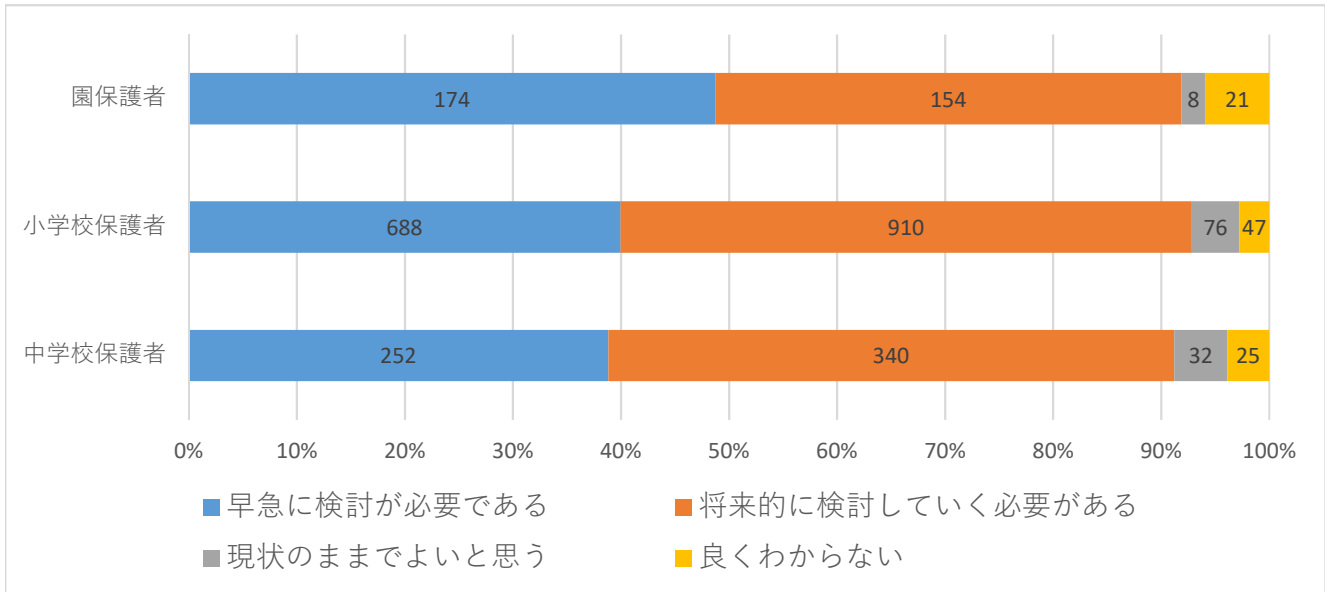
分析 3 : 中学校区別回答



■ 「必要」「どちらかという必要」が約70%を超えているのは、飯田西中学校区、竜東中学校区、遠山中学校区で飯田東中学校区は68%であった。遠山中学校区は「必要」「どちらかという必要」が95%となっている。

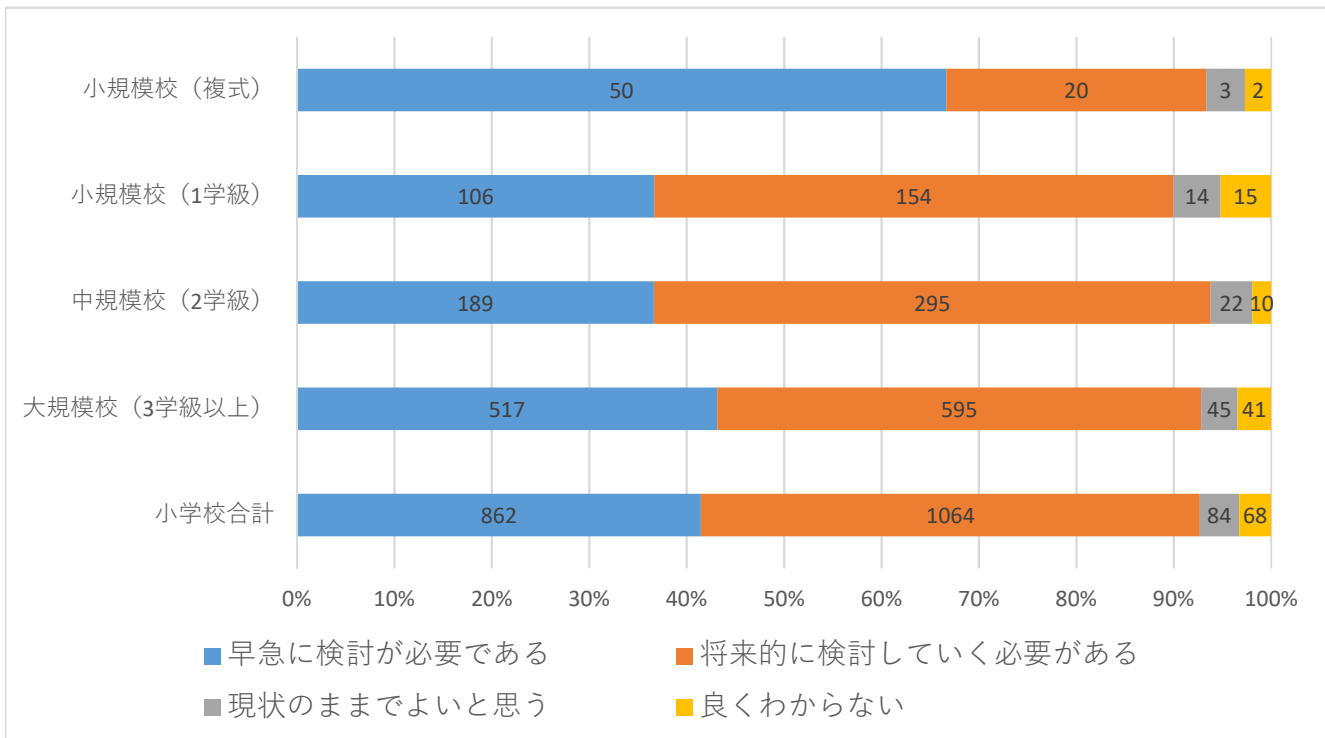
Q8：児童生徒数の減少や校舎の老朽化の進行に対応するため、より良い教育環境づくりの検討が進められていることについてどのように思われますか？

分析1：校種別回答



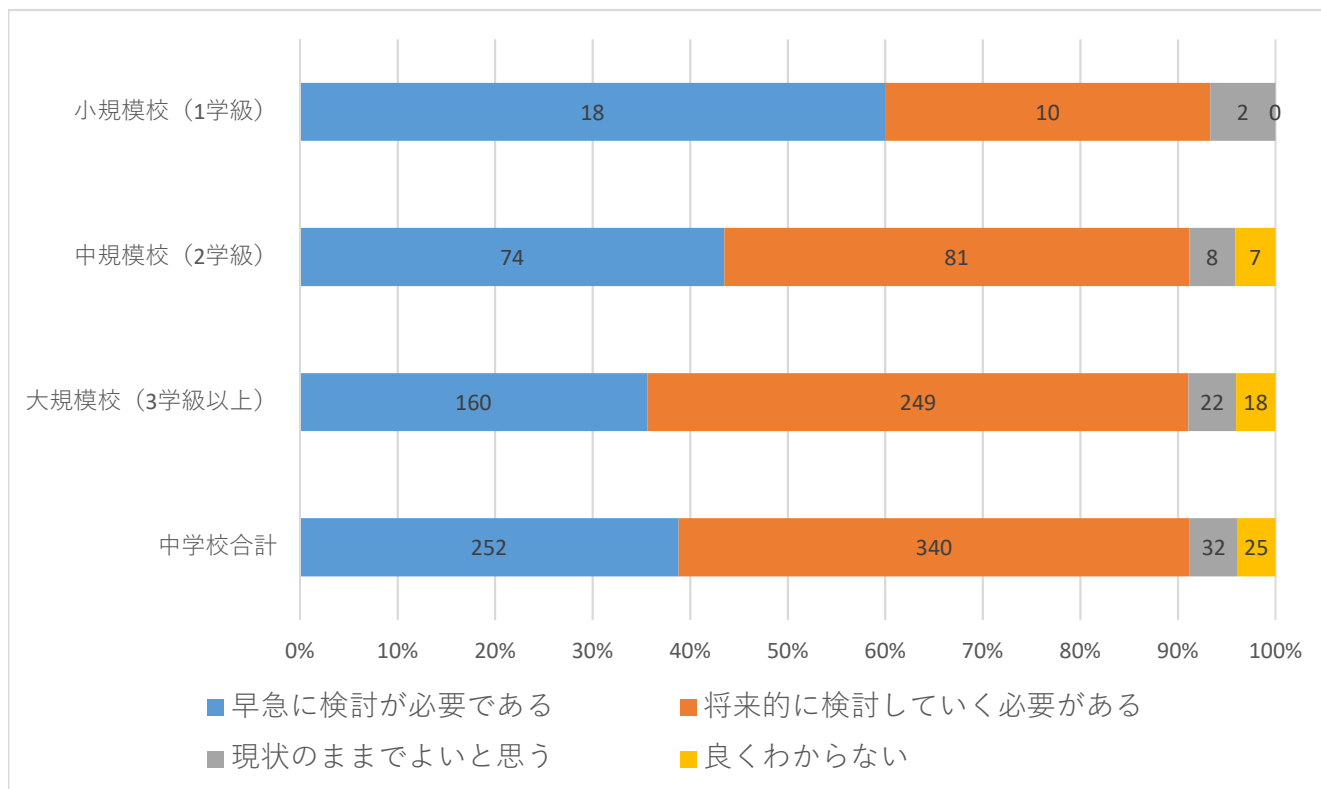
■小学校、中学校とも「将来的に検討が必要である」が50%をやや上回り、「早急に検討が必要である」が40%近くを占めている。園は「早急に検討が必要である」が50%近くを占め「将来的に検討が必要である」が40%近くを占めている。

分析2：小学校規模別回答



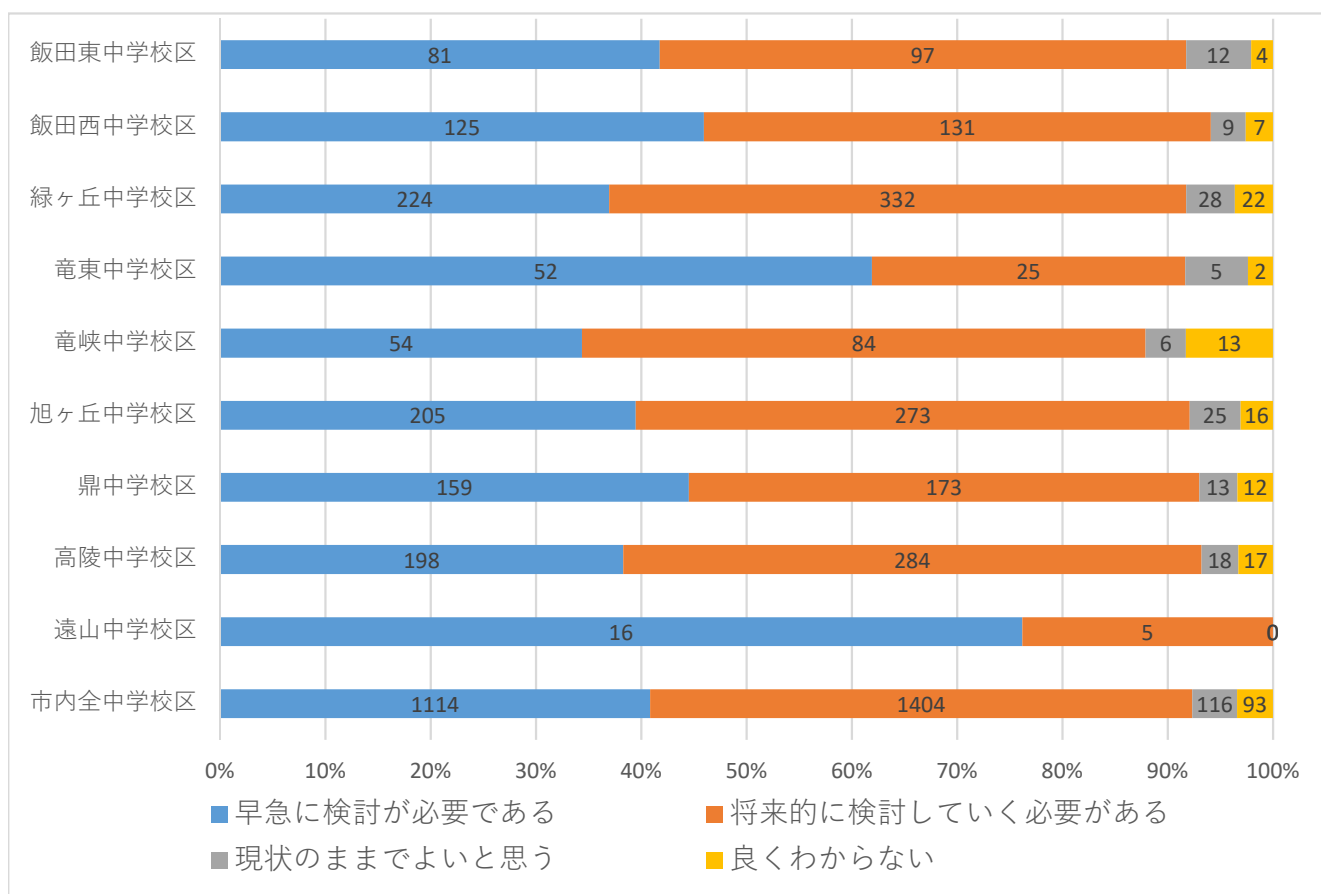
■小規模（複式）では「早急に検討が必要である」が67%を占めている。小規模（1学級）、中規模（2学級）、大規模（3学級以上）の傾向に大きな違いは見られず、「早急に」が40%近く、「将来的に」が50%～55%を占めている。

分析 2 : 中学校規模別回答



■ 小規模校では「早急に検討が必要」が60%、「将来的に検討」が33%を示している。中規模校と大規模校はほぼ同じ傾向を示しているが、中規模校の方が「早急に検討が必要」の比率が高くなっている。

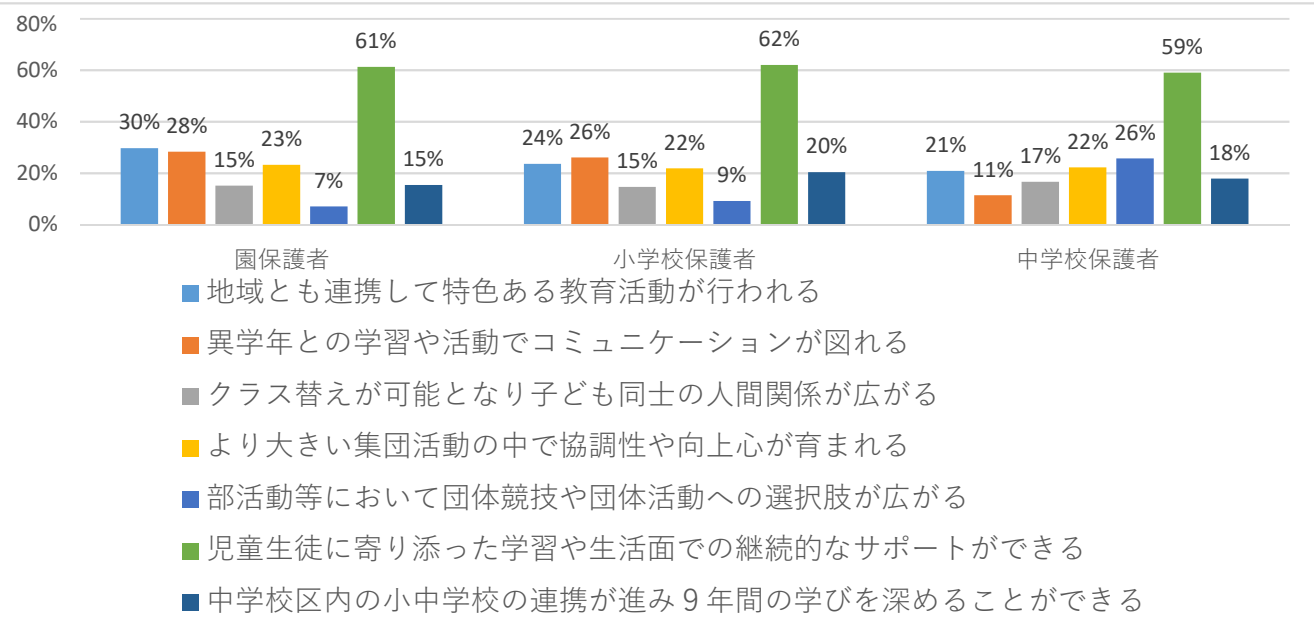
分析 3 : 中学校区別回答



■ 「早急に検討が必要である」の比率が高いのは、遠山中学校区の76%、竜東中学校区の62%である。

Q9：今後に向けて学校に期待したいことは何ですか？（上位2つまで選択可能）

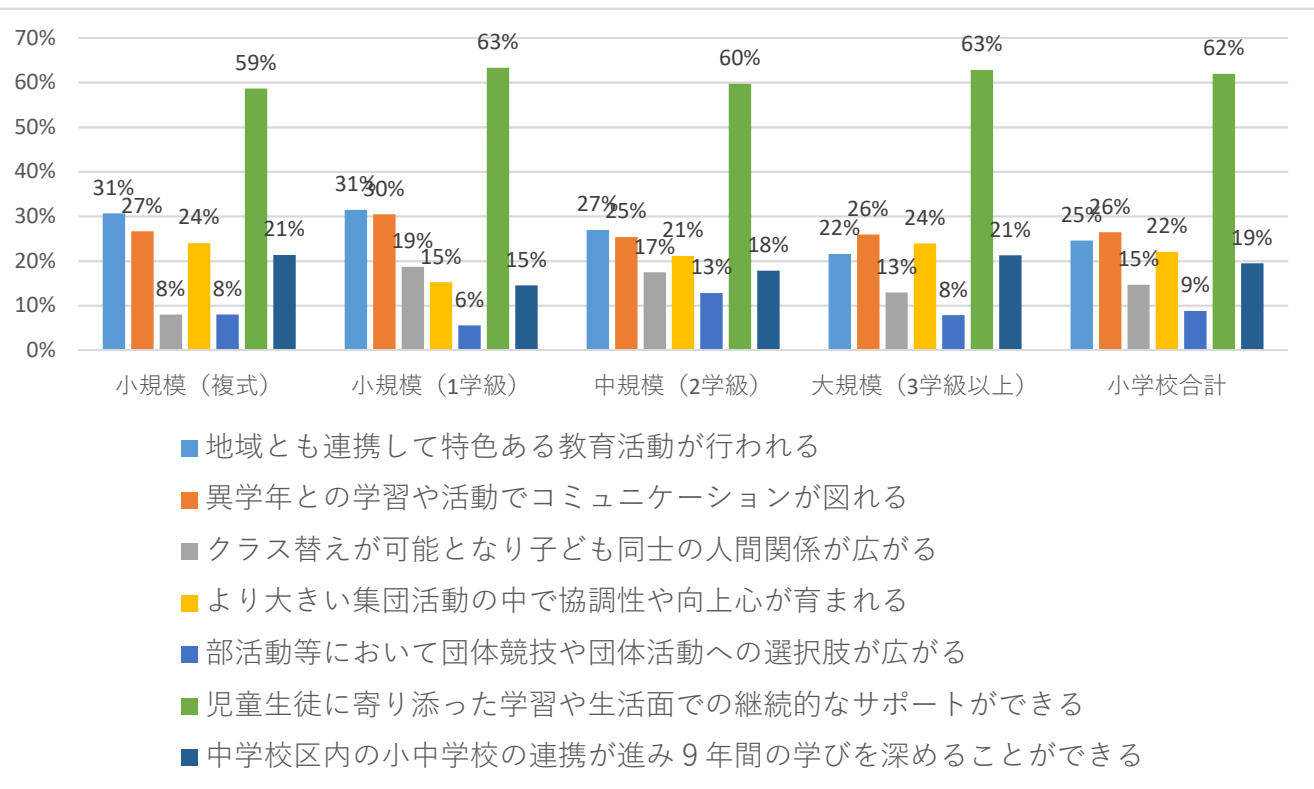
分析1：校種別回答



■いずれも「児童生徒に寄り添った学習や生活面での継続的なサポートができる」が60%近くを占めている。

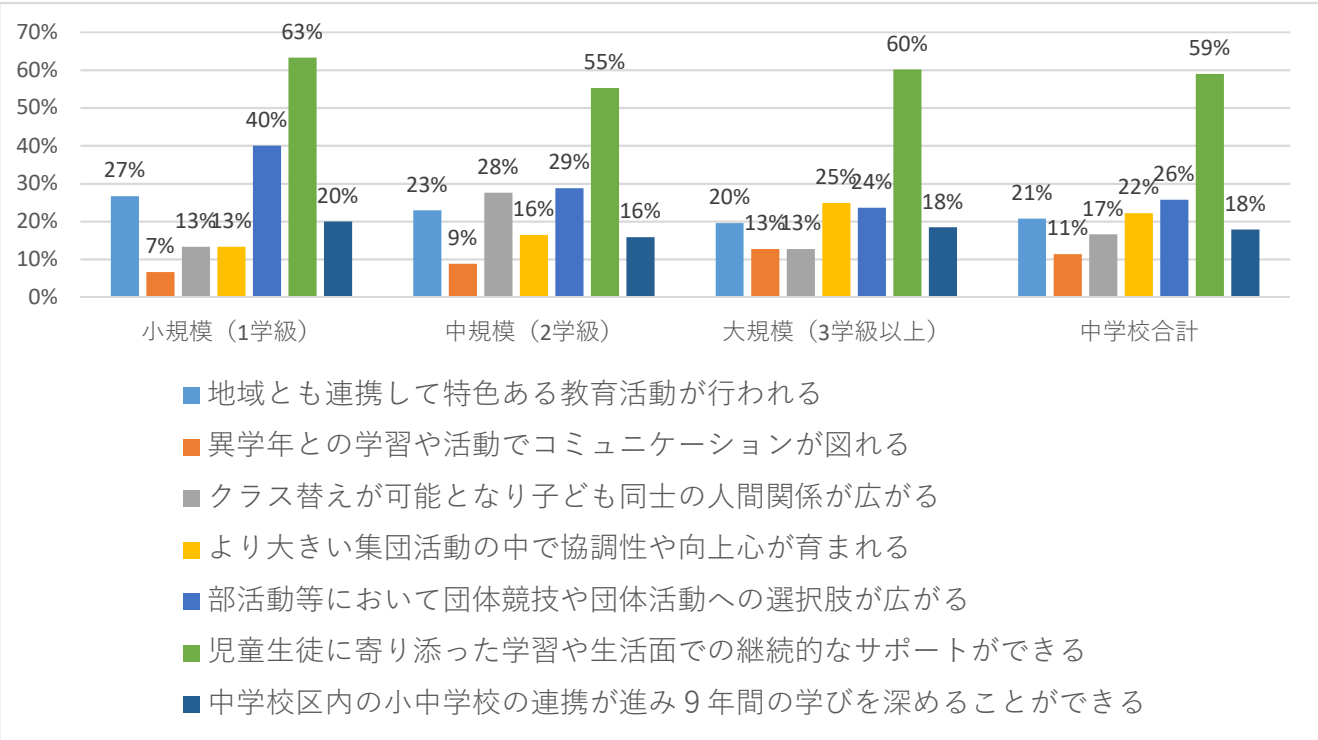
■園と小学校は「地域とも連携して特色ある教育活動が行われる」「異学年との学習や活動でコミュニケーションが図れる」「より大きい集団活動の中で協調性や向上心が育まれる」が30~20%を占めているが、中学校は「部活動等において団体競技や団体活動への選択肢が広がる」が2番目に多く25%程度を占めている。

分析2：小学校規模別回答



■それぞれの割合に違いは見られるが学校規模による大きな違いは見られず、「児童生徒に寄り添った学習や生活面での継続的なサポートができる」が最も高く、60%程度を占めている。

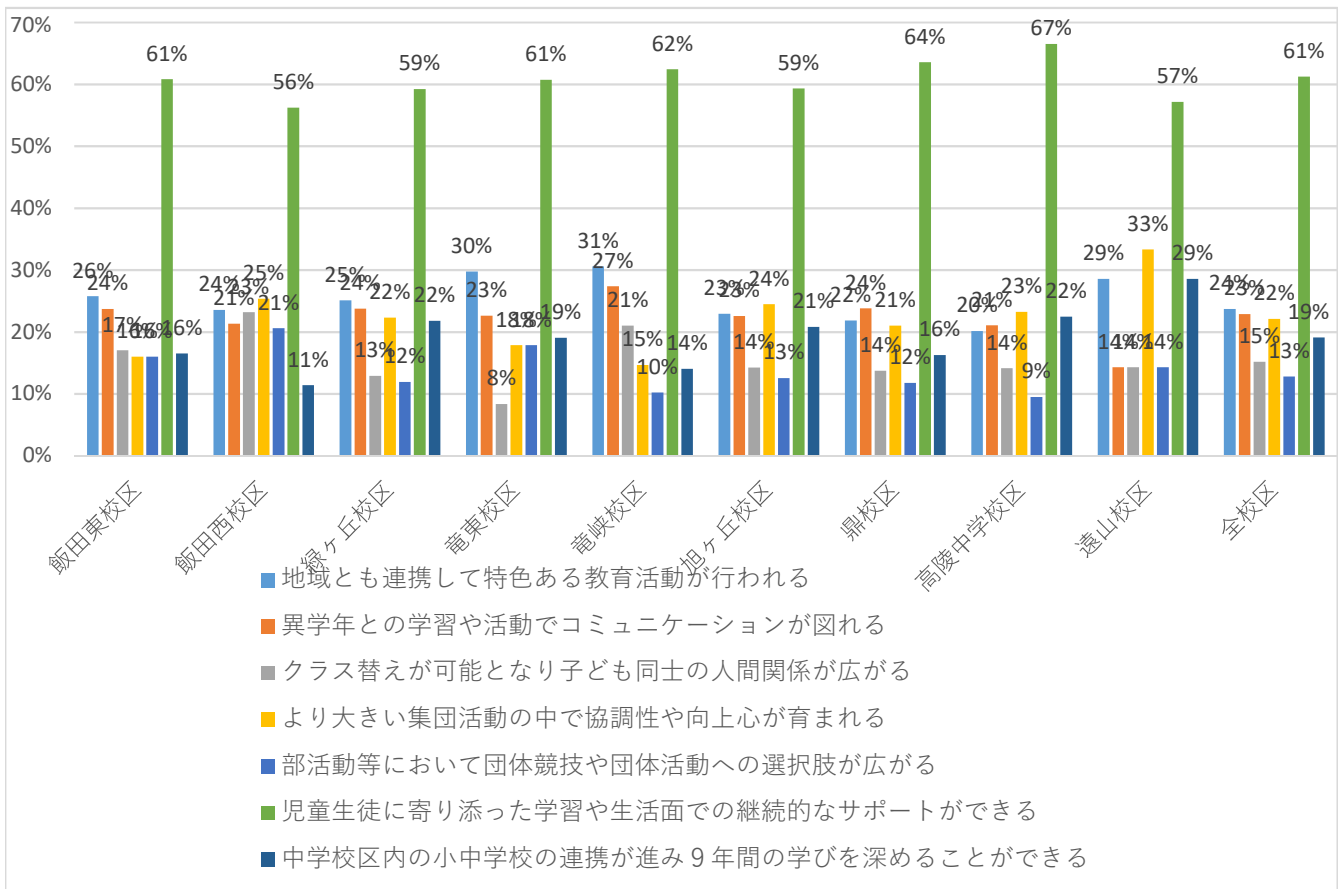
分析 2 : 中学校規模別回答



■ 学校規模が小さくなるにつれて「部活動等において団体競技や団体活動への選択肢が広がる」が占める比率は高くなっている。

■ 学校規模が大きくなるにつれて「異学年との学習や活動でコミュニケーションが図れる」「より大きい集団活動の中で協調性や向上心が育まれる」が占める比率は高くなっている。

分析 3 : 中学校区別回答

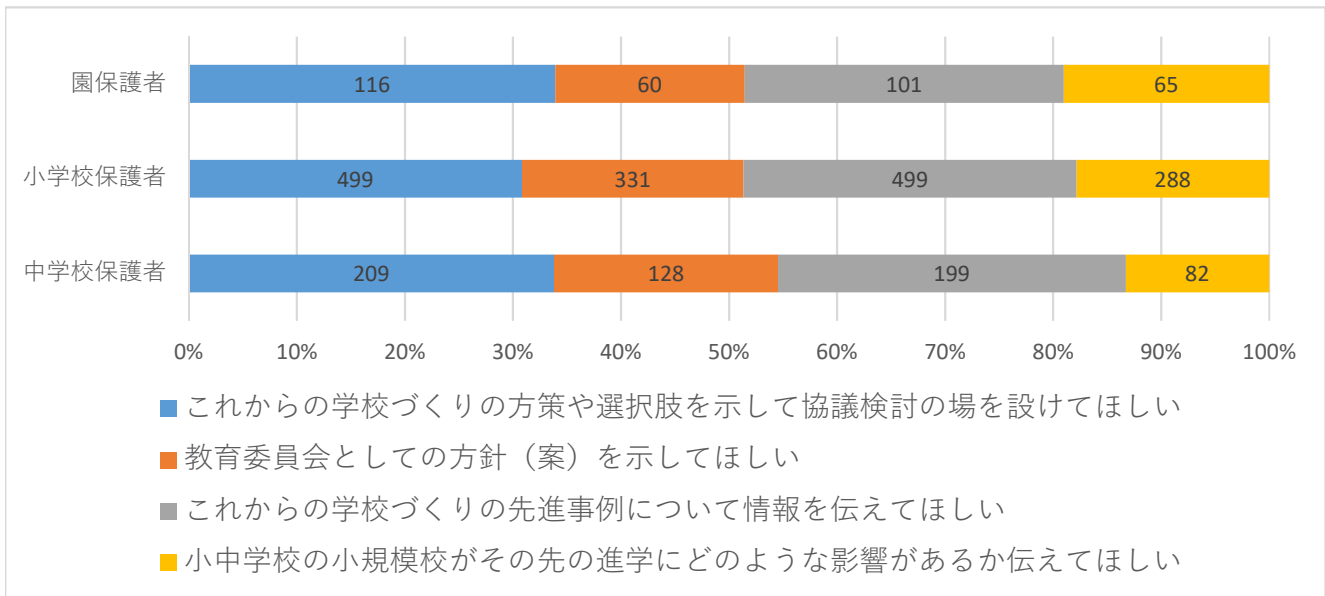


■ 各比率に違いはあるが、どの中学校区でも最も高かったのは「児童生徒に寄り添った学習や生活面での継続的なサポートができる」で60%近くを占めている。

■ 遠山中学校区では「より大きい集団活動の中で協調性や向上心が生まれる」が高くなっている。

Q10：より良い教育環境づくりに取り組む上で教育委員会に望む事は何ですか？

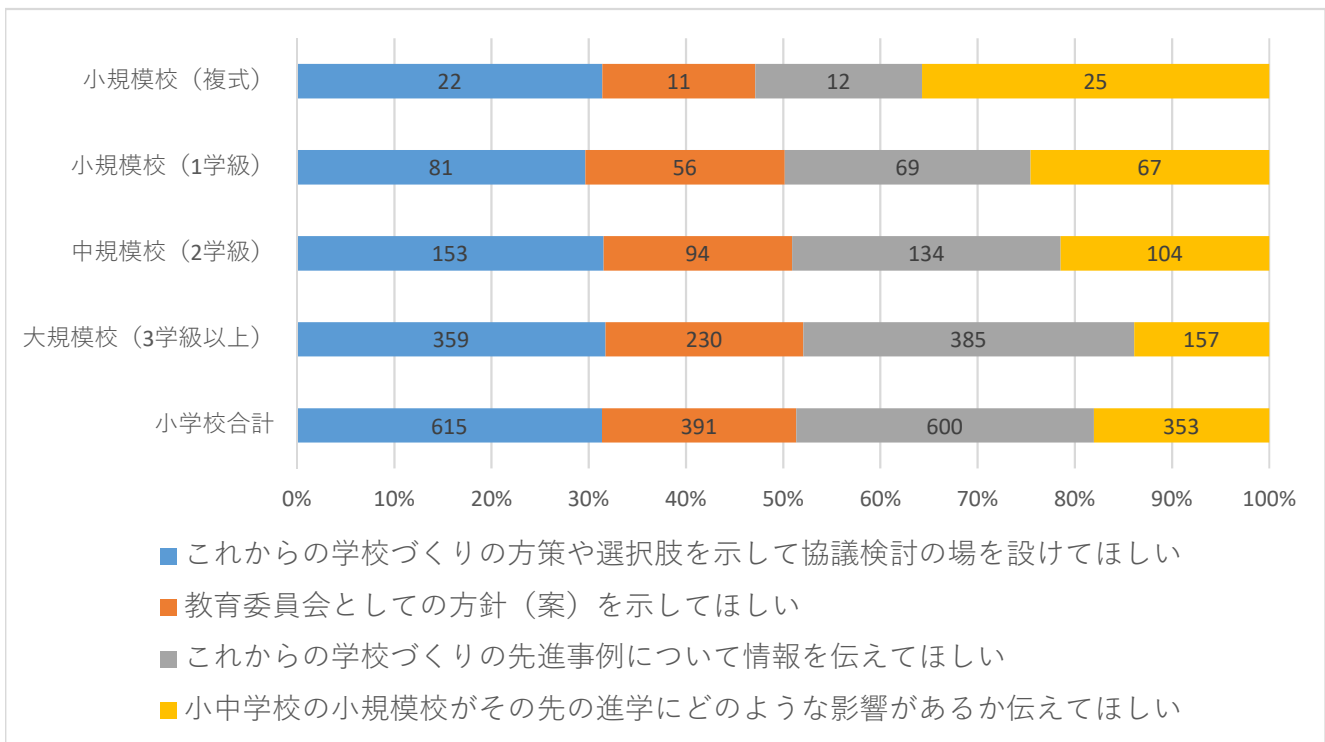
分析 1：校種別回答



■ いずれも「これからの学校づくりの方策や選択肢を示して協議検討の場を設けてほしい」「これからの学校づくりについての先進事例を伝えてほしい」がそれぞれ30%近くを占めている。

■ 「教育委員会としての方針（案）を示してほしい」「小中学校の小規模校がその先の進学にどのような影響があるか伝えてほしい」がそれぞれ20%近くを占めている。

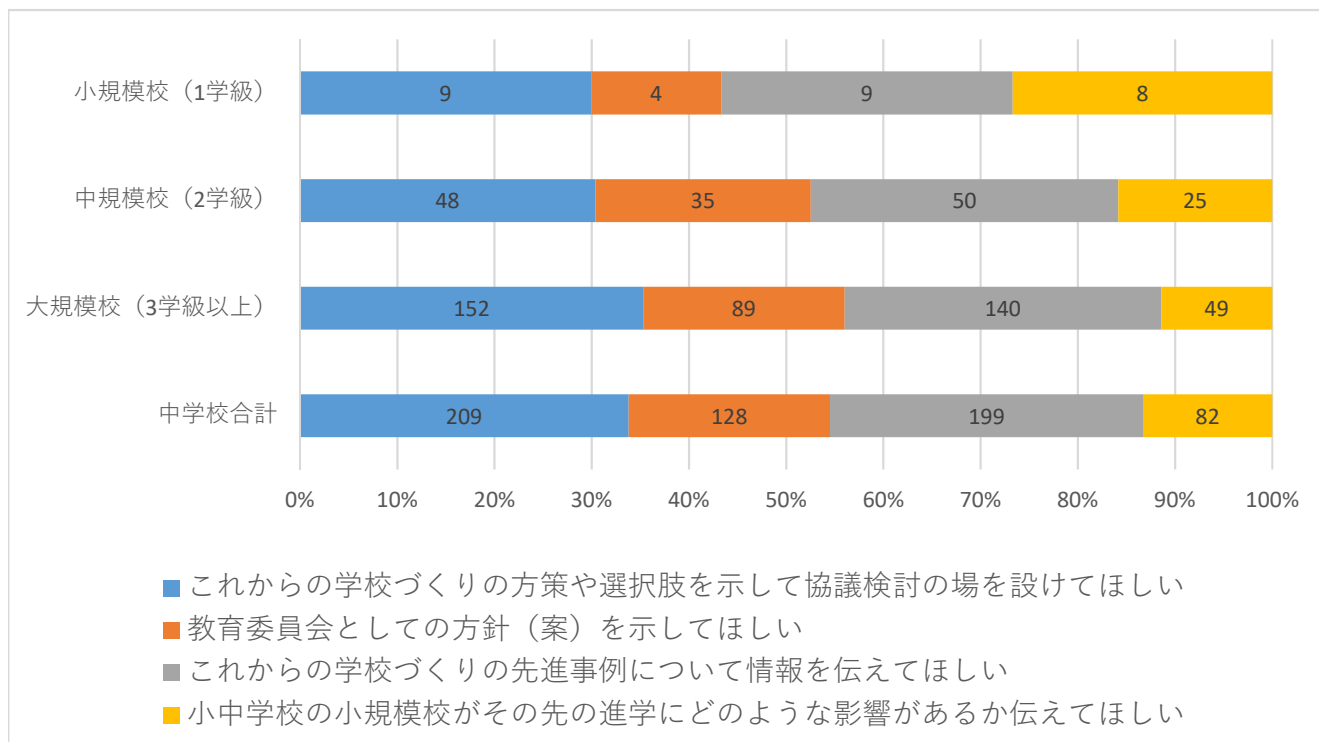
分析 2：小学校規模別回答



■ 小規模（複式）では「小中学校の小規模校がその先の進学にどのような影響があるか伝えてほしい」が36%を占め、学校規模が小さくなるほど高くなっている。

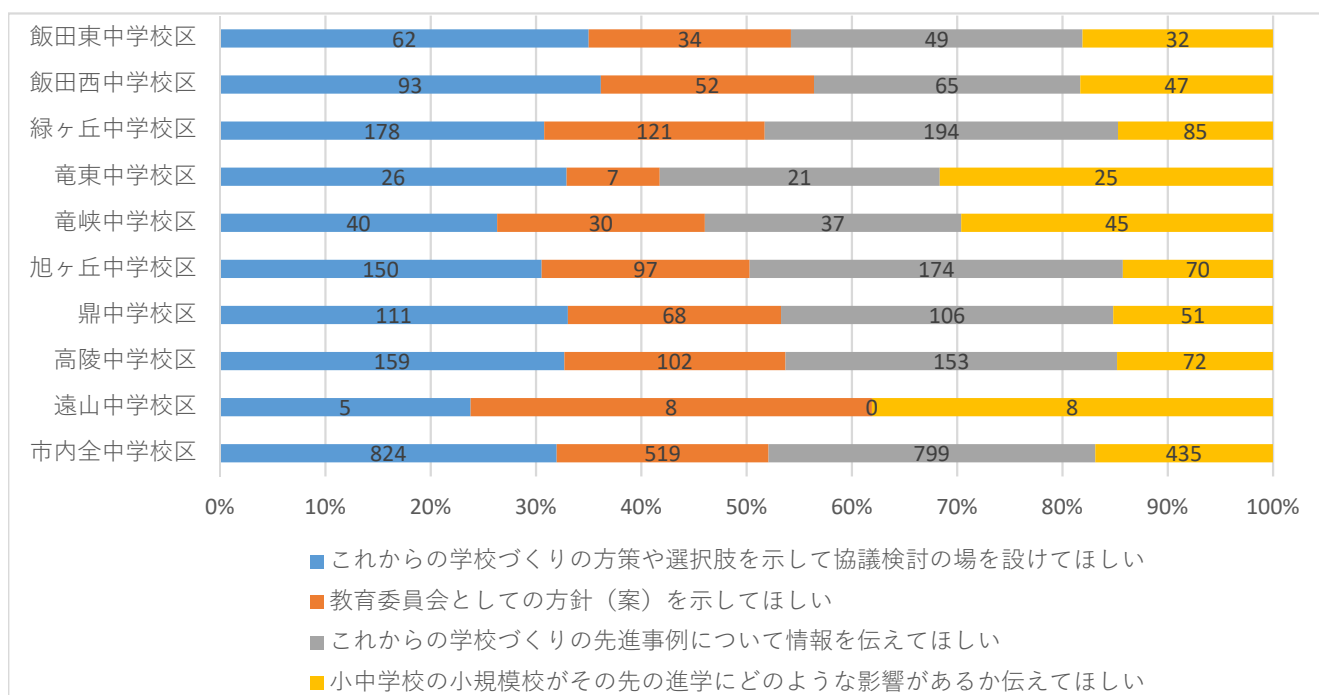
■ 小規模（1学級）と中規模（2学級）はほぼ同じ傾向を示し、大規模（3学級以上）は「これからの学校づくりの先進事例について情報を伝えてほしい」の割合が他の規模に比べて若干高くなっている。

分析 2 : 中学校規模別回答



「教育委員会としての方針（案）を出してほしい」の比率は小規模校で低く、「小中学校の小規模校がその先の進学にどのような影響を与えるか伝えてほしい」は規模が小さくなるにしたがって高くなっている。

分析 3 : 中学校区別回答



「これからの学校づくりの方策や選択肢を示して協議検討の場を設けてほしい」が最も多かったのは、飯田東、飯田西、竜東、鼎、高陵中学校区であった。

「これからの学校づくりの先進事例について情報を伝えてほしい」が最も多かったのは、緑ヶ丘、旭ヶ丘中学校区であった。

「小中学校の小規模校がその先の進学にどのような影響があるか伝えてほしい」が最も多かったのは竜峡中学校区であった。

遠山中学校区は「教育委員会としての方針（案）を示してほしい」と「これからの学校づくりの先進事例の情報を伝えてほしい」が同数であった。

(参考) 保護者アンケート自由記載欄等での意見 (集約)

○特色ある学校づくりについて

- ・地域からも愛着のある現在の学校を、児童数や校舎の老朽化を理由として統合したりせず、できることならば各校やそれぞれの特色をこのまま生かして行ってほしい。(5)
- ・少人数であるという学校の長所を伸ばした学校づくりに期待する。(3)
- ・地域の特色を生かす教育を行えるように研究をしてほしい。(2)
- ・義務教育の中でも学校独自の特性を出して、選べる学校を作って欲しい。
- ・豊かな自然を生かしたフィールドワーク等を取り入れ、魅力的な教育内容が広く認知されれば、子育て世代の移住も期待できる。
- ・少人数学級は自立心が育まれ先生と深いコミュニケーションが取れるので大人数より良いと考える。
- ・人数が多く、違う小学校が3校集まり個性が豊かで多様性に満ちている。
- ・りんご並木の伝統と継承が行われ、他校にはない学校の特色となっている。
- ・支援が必要な児童への対応が手厚いことが特色と感じている。
- ・これからはICT教育が盛んに行われていることも特色の一つではないか。
- ・学校は一人一人を大切に指導してくれている。

○あり方検討の取組みについて

- ・「子どもを真ん中においた」議論は大切なこと。親の都合や今までの歴史ばかりにとらわれずに継続的な議論を願う。(3)
- ・児童の減少がこんなに進んでいることを知らなかった。また、子どもたちに影響があることも深刻に考えていなかったので、情報発信は大切だと思った。(2)
- ・この取組みを進め益々、飯田の子ども、先生が輝いて通える学校を望む。
- ・統合を前提に話をする前に児童が少ない美点を発信し、地域づくりの面で一定数を呼び込む工夫をすべき。
- ・子ども達の安全安心に関わる予算(校舎の老朽化、教員等の増員等)を惜しまず、対応してほしい。
- ・飯田市は学校に対して統合も視野に入れていると感じたが、具体的な統合(案)を考えているのであれば示してほしい。
- ・少子高齢化で今までの制度を維持できなくなった現状を包み隠さず提示し、真正面から問題に取り組んでほしい。
- ・取組みは良いが対応のスピードが遅いように思う。早急に対応してほしい。
- ・統合により学校がなくなるということは、地域が見捨てられたと感じる。

○あり方検討の今後の進め方について

- ・新しい学校づくりについての方向性や、メリット・デメリットなど、もっと詳しく知りたいので、地域ごとに説明会を設けてほしい。(4)
- ・「飯田市の街づくり」を見据えながら、そこに暮らす「こどもを真ん中においた」議論を進めてほしい。(2)
- ・検討の主軸は、これからの社会を担う子どもたちが、知性、感性、身体性を養っていける教育の場とするための、教育理念の検討を深めるようにしてほしい。
- ・学校の統合は、多数決で決められる事柄ではないので、具体的な選択肢を示した上で当事者の意見を広く掬い上げて、現実的で有効性のある検討をしてほしい。
- ・学校により 1 学級の人数やクラス数に差があり、不公平感を感じることもある。子供達が出来るだけ平等な環境で学ぶことができるよう、早急に改革を進めてほしい。
- ・今後リニア開通により地区の人口変化など大きな構造変化の可能性もあるため、学校の位置、建て替えの有無、学区の見直しといった大きな観点での議論も必要だと感じる。
- ・教育委員会だけが舵取りをするのではなく、各学校それぞれがもっと自由に教育現場を変えていく環境が理想だと思う。
- ・老朽化や少子化に対する具体的な案が知りたい。古い考えを打破する案が出てから本格的に議論できそうな雰囲気を感じている。
- ・今後は地域も巻き込み先生方の負担を減らして行く方向へ進んで行くと思う。
- ・地方都市在住であっても自らの未来が見通せる教育を求める。

○これからの学校に期待することについて

- ・少子化が進む中で居住区の学区で学校を区切るより、小中学校も選べる時代になると良い。(4)
- ・飯田市街地の小中学校を文化会館の建て替えとも一緒に、飯田市の文化、芸術を継承していく場として、統合、併設を検討し新たな教育の場を作っていけると良い。
- ・義務教育の中でも学校独自の特性を出して、選べる学校を作してほしい。
- ・リニア時代となれば教育・学力に力を入れた小中高一貫校があってほしい。
- ・新しい時代に合った新しい教育を望む。これからは多様化の時代でありクラスにいる様々なタイプの子どものそれぞれの能力をいかに伸ばしていくか。
- ・一辺倒の教育ではなく子どもの特性に合ったクラス（小学校）の創設を希望する。
- ・他校の生徒との学びを深めたり、関係を築く機会が多く持てることに期待する。
- ・小中学校の連携も必要だが、保育園との連携や活動や行事が増えたら良いと思う。
- ・勉強だけでなく、心も体も成長できる学校整備をお願いしたい。

○これからの学校の配置・枠組みについて

- ・小学校・中学校を統合し、9年間の学びにするという考え方は新鮮。9年間を有意義に伸び伸び過ごし、自分の能力や個性を發揮し、自信を持てるようなカリキュラムに期待。(2)
- ・小中一貫校は興味がある。通学圏内にあれば考えたい。(2)
- ・義務教育学校はとても良いと感じた。4-3-2制など発達段階で変えるのは良いと思う。(2)
- ・小中一貫学校や義務教育学校のような形式になると子供同士がよりコミュニケーションが取れて良いと思う。
- ・児童数の減少→統廃合が当然の流れにならないように。小中連携・一貫教育は大いに賛成。
- ・小中一貫校や義務教育学校に変えていくことは賛成だが、短所があるなら見直して進めていくべきだと思う。(2)
- ・リニアも通るので、近隣等他地域からも来たいと思えるような、教育に力を入れた高度な小中高一貫校があってほしい。
- ・単級では交友が広がらず競争力が高まらないといったデメリットがあるのでクラス替えができるくらいの人数を希望する。
- ・やはり建て替えなどの検討は必要だと思う。小学校と中学校の垣根を超えての取り組みは他の地域の学校もやっていくと良いと思う。
- ・施設の老朽化の状況を考えると上村小学校の校舎で小中一貫校のような形が理想的だと考える。
- ・丘の上の小学3校、中学2校を1か所に集めて小中一貫の実験的教育を進めるのも一案。価値ある建築物を市民に開き利用価値の向上にもつながる可能性がある。
- ・竜峡中学校の老朽化対策の整備に際して、小中一貫校にできたら良いと考えた。加えて自治振興センター・公民館の併設による地域に根ざした教育機関の整備を希望する。

○学校の統廃合について

- ・統合により通学に負担が増えるのであればスクールバス、公共バスの増便などを検討した上で学校の統合を進めるべき。(5)
- ・今後学校の統廃合がされた場合の通学手段をどのように確保するのか気になる。(3)
- ・まちづくりの観点から小中学校が地区内にあることは確かに大切なことだが、もっと大きな視野で子どもの将来を最優先に考えてほしい。(3)
- ・統廃合は教員数を確保する等の視点からも進めていくべき課題だと思う。意見交換の場を早くから設け、地域の方々がみんなで新しい学校の在り方を考えて、自分たちの手で新しい学校を作った、と納得し、地域に根差し地域から愛される学校作りができるといいと思う。(3)
- ・地域の方の思いよりも子どもを今育てている保護者の意見を尊重してほしい。
- ・入学数が激減していく学校は、統合もやむを得ないと思います。
- ・少子化が進む中、将来的には小学校同士の統合も必要かとも思いますが、子どもが自分で歩いて通える範囲に学校があることも、子ども達の身体的な発達にはとても大切だと思う。
- ・中学は部活の問題もあり、学校の合併など進めて学力向上とさまざまな活動の充実に向けて早急に検討してほしい。
- ・追手町小と浜井場小の統合。その先に東中と西中の統合が段階的に検討される事と思うが、地域住人のこだわりより子どもたちのより良い教育環境を優先して統合が進む事を期待する。

○意向調査（アンケート）について

- ・アンケートを定期的に行うことは保護者の意見を聞ける機会なのでまた実施してほしい。(4)
- ・このようなアンケートなどを実施するとみんなは意識出来ると思う。(3)
- ・子どもたちを真ん中におくということで、子どもたちの意見も知りたい。大人と子ども当事者たちの考えを反映させる事も大事だと思う。大人の事情を真ん中に置く事ではない取り組みを願う。(3)
- ・これからの学校づくりの方向性を決める際に、その学校の保護者の意見を聞く場を頻繁に設けていただき、多くの人が納得できるような形にしてほしい。(2)
- ・年配の人の意見に強く左右されず、そこに通う子供や子育てする世代のための学校であってほしい。

○その他

- ・このような活動が行われている事を今回初めて知った。現状を知ることができ、ぜひ検討を続けて頂きたいと思った。(4)
- ・自分から進んで知るという事をしなかったので、学校を考える良い機会になった。これからも情報の発信をしていただけると有難い。
- ・飯田市の学校を取り巻く現状を知ることが出来た。こんなに少子化と校舎老朽化が進んでいたとは…未来の姿を見据えた取り組みを我が子孫が困らないように考える必要があると感じた。
- ・子供が毎年100人以上減っている事をアンケートで知った。
- ・情報紙には小中一貫、義務教育学校を例としてあげられていましたがメリットだけではなくデメリット等、懸念する事柄も掲載してあると思慮しやすくアンケートにも答えられやすい材料となる。
- ・飯田市の学校や歴史を守るために少人数クラスなのに学校を残すのはおかしいと思う。
- ・市街から離れた場所などは極端に児童数の減少等で課題があるが、その環境も事前に親の考えがあった上で、選択している事もあると思う。
- ・児童生徒数が減少すると、学校の環境整備も行き届かなくなり、PTA活動への参加がほぼ必須になり大変。
- ・ひとり一人の個性を認めて寄り添って指導してくださる様子は、小規模校だからこそ、有り難く感じている。
- ・飯田コミュニティースクールで、地域住民が積極的に学校の活動を支援し協働していく飯田ならではの学校の仕組みは、学校の主体性を地域住民の意見により減退させているように思う。
- ・部活動を学校から切り離し、地域に委託することなどと同時に考えて行かないと、これからの義務教育は成立しない。先送りではなく今から取り組んで行かないと。
- ・とにかく失敗する事は悪い事じゃないって雰囲気教育委員会も学校も保護者も生徒も感じてチャレンジしてほしい。

②特色ある学校づくりについて

ア 経過

<令和3年度>

「これからの時代の教育に対応したよりよい教育環境」をテーマに、各小中学校の学校運営協議会において、少子化や施設の老朽化といった小中学校を取り巻く現状について認識を深めていただいた上で意見交換が行われました。意見交換の中で、「特色・魅力ある学校づくりのためにどのようなことが考えられるか」「学校の配置・枠組みのあり方」に関する多くの意見をいただきました。

<令和4年度>

地域ならではの創意や工夫、学校や家庭との繋がりが表れる「特色ある学校づくり」について、引き続き各学校運営協議会において意見交換テーマをひとつに絞り、学習状況調査の結果や学校アンケート等の客観的データも材料としながら意見交換を行い、多くの意見をいただきました。

イ 中学校区毎の「特色ある学校づくり」に関する意見（令和3・4年度学校運営協議会から）

飯田東中学校区（追手町小、浜井場小及び飯田東中学校学校運営協議会）

- ・教科学習では納まらない学習を地域と学校が一体となり行っていること（並木の精神や伝統の継承）が学校の特色。
- ・丘の上にある学校として周辺文化環境施設（文化会館・美博・りんご並木等）を生かした文化的活動に触れることのできる都会的コンセプトのある学校であることが特色。
- ・信州大学の出先機関が学校内にある。信大による放課後特別授業等、新しい取り組みが双方にメリットがある。この学校だけの特別感が魅力となる。
- ・学区を取払い生徒が自由に学校を選べる時代が来るのではないか。そういった柔軟な考え方が必要。自由通学区により特色ある学校を選ぶことが考えられる。
- ・地域(公民館)と学校が触れ合っていく事で地域に対する愛着が湧くことが特色となる。
- ・地域の方々は自分の家の子だけでなく、他の家の子どもたちにも愛情を分け与えてくれる。子どもを安心して通わせることのできるのも地域の特徴。
- ・小学校や中学校の枠組に捉われず学校間を超えた合同授業を考える。
- ・少人数で精鋭を鍛え上げることも特色に繋がるのではないか。
- ・学校や地域という境は必要ない。丘の上や飯田市の子どもとしてどう育てたいかを考えて行きたい。
- ・自然が豊かということだけでは、特色にあたらない時代がやってくるのでは。子どもの個性を大切にされた多様性を認める学校であり続けてほしい。
- ・特色ある学校として、現校舎を特徴ある建物として追求していけば魅力になるのでは。

丸山小・飯田西中学校運営協議会

- ・日頃から地域の大人と触れ合える場所を校内に作るなど、空き教室の有効利用と合わせて学校の特色にもなる。
- ・地域で子どもを育てることは都会ではできない。飯田の大きなメリットであり特色。
- ・地元の良さを味わってもらい、県外に出ても将来戻って来たいと思うような思い出を作ってやれることが必要だし取組みたい。
- ・子育てビジョンをベースにしてどんな子を育てるか、それにはどんな環境を整えるか検討することが特色づくりに繋がる。
- ・これまでの学校の歴史を踏まえて、特色ある学校づくりをこれからどうしていくのかは考えていきたい。
- ・少子化を、良い方向＝学校の特色 と捉えることも考えないと単に学校が縮小していきただけで終わってしまう。
- ・他地区の事例として、地域と一緒に特色ある学校づくりを行っている所もあるが、丘の上の学校ではなかなかそうはいかない部分もある。

緑ヶ丘中学校区（松尾小・下久堅小・竜丘小・緑ヶ丘中学校学校運営協議会）

- ・リニアが身近になると中学生も都会へ行って学ぶという選択肢も出てくるが、小中学生時代の地域での原体験が、地域への愛着へと繋がっていく。一度外に出ても地元に戻ってくるような児童生徒を育てたい。
- ・学校の特色はサイエンススクール。身近で大人に教わり、そして大人も楽しむ活動が伝統として継続されている。子どもたちが地域に目を向けるという意識も高めている。
- ・地区の人が子どもたちに真剣に関心している和紙の活動と学校の絡みがうまくいっている。少子化になっても続けていきたい特色である。
- ・地域には人や古墳など教育資産が多くある。それを磨き上げればこの地域ならではの教育ができる。また、学校での時間の使い方でも地域ブランドをもっと磨くことができる。
- ・地域の良さは、自由画教育から始まる大正時代から引き継がれた財産がたくさんあること。それを学校でも生かしている。学校が地域の財産、学ぶ価値のあるものをPTAとも協力しながら磨きをかけていくことが大事。
- ・学校の特色は地元企業との連携の良さ。地域にはたくさんの企業があり、これからはどんどん外に出て地域の企業と繋がりのある学校でありたい。
- ・市の副学籍制度は今年7年目で居住地交流を行っている。養護学校の子どもが地域の子どもとして小学校に登校し交流する中で、様々な経験や共生環境となっている。
- ・今後は社会から求められる人材も変わってきている。「何かに秀でる」「意見をいうことができる」という子どもたちを育てることも特色ではないか。
- ・規模の大きい学校だからできることを前面に出すべき。小学校から教科担任制を取り入れるなどとした教育課程が特色となる。

竜東中学校区（上久堅小、千代小、千栄小及び竜峡中学校学校運営協議会）

- ・地域は学校を中心に回っている。千代っこ応援団などは学校の存在は大きい。若い人たちに地域に残ってもらい地域で子育てをしてもらえるよう地域としても取り組んでいきたい。
- ・「ふるさと夢学校」は3校の小学生が、農業体験をしながら地区内の農家へ1泊する。地域との関りが深まり子どもたちの評判も良かった。学校に地域が絡むことで特色に繋がっている。
- ・今年は各学年の先生とまちづくり委員会、公民館長、主事と今年1年こんなことをやりたいという各学年の希望を聞く会が開かれる。この会により、地域とのつながりのパイプがより太くなった。
- ・この中学校区の教育環境はすごく良い。教育の密度の高さや環境の良さをアピールしながら特色づくりに繋げていく。
- ・学校の特色は学力。さらに高めるための小中・一貫教育の取組を考えたい。また、その特色を前面に出し、全通学区や市外からも児童生徒が来る計画が出来たら良い。
- ・人数が少ないメリットは授業中の一人ひとりの時間が取れること。先生とのかかわりの時間が取れることが学校の特色。
- ・自由に行き来できる授業体系や希望する授業を選択することが特色に繋がるのでは。これから求められるのは全国同じ発想ではなく、学校独自の特色。それが生き残りにつながるのでは。少人数の弱みはコミュニケーションであり、解消するために他校との交流はモニターを通して行うとか、外国とも交流し国際交流ができるといい。

竜峡中学校区（龍江小、川路小、三穂小及び竜峡中学校学校運営協議会）

- ・成人式のアンケートでは、小学校の頃のりんご収穫や運動会を思い出に上げる成人が多い。子どもの頃の体験がふるさとへの愛着心につながっていると感じる。思い出にも考慮しながら行事の精選を行っていききたい。
- ・今田人形や地域の竹を使った活動など、魅力ある取り組みについてはこの地域はかなり進んでいる方ではないか。
- ・特色ある学校づくりとしては、新しいものも大切だが、今まで続けてきたふるさと巡りとか地域の皆さんに協力いただいているクラブ活動とか交通安全の立ち番とかの大切さとか意味を考えたりしながら続けていけば、特色ある学校、この地域らしい学校づくりができるのでは。
 - ・コミュニティスクールの目的は、自然や伝統、文化などの故郷の良いところを大事にして、家庭、地域がスクラムを組み、子どもたちが帰って来たいという気持ちになってもらうこと。
- ・リニア、大学誘致、女子短の共学化など、学生の流出を防げる可能性も飯田市として出てきているので、農業など地域の良さを活かしながら特色づくりを進めていく。
- ・生徒の人数が減って伝統ある部活動が成立しなくなっている。自由通学区という意見もあるが、地域としての魅力や学校としての魅力がなければ自由通学校区の選択として選ばれない可能性がある。

旭ヶ丘中学校区（山本小、伊賀良小及び旭ヶ丘中学校学校運営協議会）

- ・特色は地区の独自性を打ち出していくこと。自然の豊かさや里山とのふれあいや商業施設の見学を行うことにより社会を知る活動を進めたい。
- ・地域・郷土愛を育むには地域の中での文化づくりが大事。例えば南信濃の霜月まつりは子どもたちが主役になっている。この地域に子どもが主役になっているものがあるか。地域の中で子どもたちの文化として根付いていくようなことを考えていく必要がある。
- ・大きな特色は杵原学校。杵原で学んでいることが子どもたちの心に残るのではないか。
- ・地域で頑張っている人を知ること大事だし、教師も情報を得て地域教材について学ぶ場を確保していきたい。
- ・山麓線のパノラマを活かした子どもたちの脳裏に残るような活動が特色に繋がるのでは。
- ・多くの選択肢から部活が選べるのが魅力であり更に強いというのも学校の特色になる。
- ・学校では昨年からは教科担任制を試験的に始めている。時間割を見直すなど難しい面もあるが子どもたちには好評。学校の特色のひとつとして進めていく。
- ・3校小中連携一貫教育の取組を更に生かしていくことが特色に繋がる。
- ・学校の特色は子供たちに学力をつける事。ただ小学校に上がる前に既に学力に差ができてしまっている。小学校入学前までに何をすればよいか。それは本を読む事がいかに大事であるか。そういった面のサポートが地域として考えたい。
- ・学校の特色づくりについて、絞り込んでいくのもいいのではないかと。例えば、国語力、読書力、体力は他校には負けないといった特化した取組も必要ではないか。

鼎小・中学校学校運営協議会

- ・鼎小中の特色や利点は、公民館を中心とした地域との連携の中で子供が成長していること。
- ・鼎地区の学校は小中一貫の強みという部分もあるが、課題は生徒の多様な価値観をいかに育てていくかであり、現状だと選択肢が少ない。地域と一体となって選択肢を増やしていきたい。
- ・この地区は地域資源が充実しているので、そういうものとの関係・連携を強くし、多様な価値観を醸成していく。多様な価値観に応じられる地域にしていきたい。
- ・中学校はライジングプランの中でお互いに高め合う学びに取り組んでいる。基盤になるのは良好な人間関係。それを育むには小中一貫という環境が強みになりうる。環境の特性を活かしながら地域全体として教育を考えていきたい。
- ・今、中学生はボランティアステーション等で地域に出るようになってきており、いずれは小学校にも広げていきたいと考えている。学校と地域で子どもたちを育てていくという鼎の考え方を知っていただく機会をつくっていきたい。
- ・今後に向けて、人的環境と物的環境を整えることが必要。飯田市では信大情報学部を誘致している。この地域といえば情報機器、情報を使った活動というようなメインの看板があると子どもたちにとって拠り所になるのでは。

高陵中学校区（座光寺小、上郷小及び高陵中学校学校運営協議会）

- ・魅力は、地域内に小・中・高があり場合によっては将来大学が来るかもしれない。企業とも連携できる可能性のある地域である。学力だけでなく小・中・高・大・企業が連携して人間性を高めていく。また、キャリア教育をきちんと行うことで、地域で子どもたちを育てていくことができる。これが地域の魅力、学校の特色となれば。
- ・この地域には高校もある。連携しながら大きな繋がりで活動していくことができれば他の地域には無い特色ある学校づくりができる。
- ・この中学校区のイメージはスポーツが盛ん、学校がコンパクトな地域に入っている、学府のよう、身近なところにたくさん働く場所がある。
- ・小学校周辺は自然が多い。自然の環境にマッチした遊びの森から賑やかな声が聞こえる学校である。自然豊かな中で自然と触れ合いながら学びを深めていくのがこの学校の特色ではないか。
- ・今現在何をやるか、カリキュラムにメスを入れていく。学校独自のモデルカリキュラムを作っていく。小学校から中学3年まで子どもたちと一緒に大人も学んでいく。
- ・小学校の4年間で総合的な学習の基礎を気づいていく。地域の皆さんに支えてもらいながら授業にも地域の人たちが入り込んでいく。地域の人たちが学校に出かけていく。これまでと逆の発想が特色づくりへと繋がる。
- ・自分で未来を切り開く力を子どもたちにつけさせたい。学校は楽しい場所ではなく、自分で楽しむ場所である。楽しんでいくんだと捉えることが未来を切り開く力につながる。そんな特色のある学校でありたい。

遠山中学校区（上村小、和田小及び遠山中学校学校運営協議会）

- ・中学校区内の保育園2園を含めた遠山郷二園三校ランドデザインを定め「遠山郷を愛し、誇りを持ち、遠山郷を背負っていく人材の育成」を共通認識に、学校の魅力づくり、特色づくりを進めている。
- ・地域の良さに触れ、持続可能な遠山郷について考え活動するE S D（持続可能な開発のための教育）を実践している。
- ・ユネスコスクールの登録に向けた3校連携した取組みを進めている。
- ・長期休暇（夏・春休み）の児童生徒見守り活動に取り組んでいる。
- ・各小学校における小規模特認校制度や、やまざと親子といった児童数減少改善に向けた取組みを継続している。
- ・自立ある学びの実現のために複式学年別指導や単元内自由進度学習の研究・導入を行っている。
- ・地域サポーター等、地域によるそれぞれの学校の活動を支援する体制が地元の方々により整えられている。
- ・各地区の霜月まつり保存会との交流を通じて、霜月の舞の習得と舞の披露を中学生が行い伝統芸能の継承に参加・貢献している。

③学校の配置・枠組み研究について

ア 目的

学校の配置・枠組みについて、国の審議会答申や各種研究報告、先行的な取組事例の調査検討、外部有識者からのアドバイス等を基に事務局内で研究を行い、これからの学校のあり方に向けた検討材料の一つとして整理を行う。

イ 経過

令和3年度の学校運営協議会において「小中学校を取り巻く現状についての認識を深め合う」ことと、今後の学校のあり方に向けた「特色ある学校づくり」と「学校の配置・枠組みのあり方」について自由に意見を出し合っていました。地域の特性や学校との繋がりを生かしたその学校ならではの「特色ある学校づくり」については、客観的データを用いながら引続き学校運営協議会で意見交換をしていただきました。

一方、専門的知見や調査検討が必要となる「学校の配置・枠組み」については、教育委員会事務局で研究を行うこととしました。

ウ 研究内容

- 小中連携・一貫教育の取組み
- 県内先進事例における研究
- 国の考え方についての整理及び研究

エ 研究報告

○小中連携・一貫教育を更に進めるための枠組み

教育委員会では、中一ギャップにより不登校となる中学生の増加や、中学生の学力の伸び等の課題に対応するため、義務教育課程の9年間を通じて、系統的で連続的な学びを進める「小中連携・一貫教育」を平成23年度より取り組んできました。

12年間の取組を通じて、当初の課題は徐々に改善に向かい、小中学校教職員相互の連携・協働意識が高まり、教育活動における小中学生の交流やともに学び合う状況が生まれ、定着してきています。

しかしながら、先行きを見通せないこれからの時代を生きていける力を培う教育を、家庭、地域、学校、行政が協働して進めていく取組み、教育振興計画が目指す「地育力による未来をひらく心豊かな人づくり」の必要性はますます高まっています。

そのために、これまで行ってきた小中連携・一貫教育を更に実践的に進めていくための学校の枠組みのあり方として、どのようなものが考えられるのかを、全国及び県内事例を参考にして研究しました。

○県内先進事例における研究

新たな学校形態として考えられるもの

	義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校
学年区割	発達段階や教育課程に応じて4－3－2制や5－4制等の設定が可能	小学校6年、中学校3年生（6－3制） ※現行小中学校と同じ
教育課程	9年間の教育目標の設定 9年間の系統性を確保した教育課程の編成一貫教育の実施に必要な教育課程の特例を創設（独自教科の設定、指導内容の入替・移行）	9年間の教育目標の設定 9年間の系統性を確保した教育課程の編成一貫教育の実施に必要な教育課程の特例を創設（独自教科の設定、指導内容の入替・移行）
組織運営	一人の校長 一つの教職員組織	学校ごとに校長 学校ごとに教職員組織 ※小中学校における教育を一貫して進めるためにふさわしい運営の仕組みを整えること
教員免許	教員は原則として小中両方の免許状を併有していること ※当面の間は前期課程、後期課程の免許で教員配置	教員は所属する学校種の免許状を保有していること
独自教科	設定可能 ※ふるさと科・地域づくり科・自然と暮らし科等	設定可能 ※ふるさと科・地域づくり科・自然と暮らし科等
兼 務	小中どちらを教えても申請の必要なし（柔軟な職員配置が可能）	小と中の職員が兼務する場合は申請が必要（小⇔中の兼務授業数を同じにする）
標準規模	18学級以上27学級以下	小中それぞれ12学級以上18学級以下
設置手続	市の条例	市教育委員会の規則等
施 設	施設一体型、施設分離型、施設隣接型	施設一体型、施設分離型、施設隣接型

～義務教育学校、小中一貫校の一般的なメリット～

- ・独自のカリキュラムを組むことができる。
- ・中学に上がる際の「中一ギャップ」が少なくなる。
- ・幅広い年齢層でのコミュニケーションが図れる。
- ・教科担任制の早い段階での導入ができる。
- ・個に寄り添った学習面・生活面での継続的なサポートが可能。

～義務教育学校、小中一貫校の一般的なデメリット～

- ・9年間同じ環境で過ごすため環境の変化に対応しにくい。
- ・小学校高学年生におけるリーダーシップや自信の創出につなげにくい。

○根羽学園（義務教育学校）の事例研究から

メリット

- ・小規模校ゆえの小回りの利きの良さが義務教育学校となって更に生かされた。
- ・異年齢間での学びにより人間関係のつながりという面において効果が見られた。
- ・教員不足が解消された。（学校に配置される県費職員が増えた）

デメリット

- ・高校へ進学した時の環境の変化が大きく、新たな環境の中で上手くやっていけるか心配される。
- ・小学校高学年生のリーダーシップが発揮しにくい。

導入時における課題

- ・小中学校それぞれの教員の教え方や業務量の違い。（小中教員文化の違い）。
- ・カリキュラム編成時や進め方、業務量の増加に対する対応。
- ・小中学校それぞれの行事や活動があるため学校行事が増加。
- ・教頭は小中学校両方の対応が必要となる。（業務量増加）。

○国の考え方についての整理及び研究

- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して/中央教育審議会答申より
- ・新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について/学校施設の在り方に関する調査研究
協力者会議から

(1) 個別最適な学び

「個に応じた指導」の充実を図り、情報手段を活用するために必要な環境を整える。

ICT環境の活用、少人数によるきめ細やかな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実させていく。

「主体的・対話的で深い学び」を実現し、個々の家庭の経済事情に左右されることなく、子どもたちに必要な力を育む。

(2) 協働的な学び

探究的な学習や体験活動を通じ、子ども同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する

(3) 人口動態等を踏まえた学校運営や学校施設の在り方

①基本的な考え方

少子高齢化や人口減少等により子どもたちを取り巻く状況が変化しても、持続的で魅力ある学校教育が実施できるよう、学校配置や施設の維持管理、学校間の連携の在り方について検討が必要

②児童生徒の減少による学校規模の小規模化を踏まえた学校運営
ア公立小中学校等の適正規模・適正配置等について

- ・教育関係部局と首長部局との分野横断的な検討体制のもと、新たな分野横断的実行計画の策定等により教育環境の向上とコスト最適化
 - ・義務教育学校化を含む地方公共団体内での統合、分校の活用、近隣の地方公共団体との組合立学校の設置等による学校・学級規模の確保、少人数を生かしたきめ細かな指導の充実、ICTを活用した遠隔合同授業等による小規模校のメリット最大化・デメリット最小化
- イ義務教育学校制度の活用等による小中一貫教育の推進
- ・小中一貫教育の優良事例の発掘、横展開
- ウ中山間地域や離島などに立地する学校における教育資源の活用・共有
- ・中山間地域や離島等の高校を含めたネットワークを構築し、ICTも活用してそれぞれが強みを有する科目の選択的履修を可能とし、小規模校単独ではなし得ない教育活動を実施

参考：新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について飯田市内の既存学校の例では、令和4年度に飯田東中学校に開設した信大教職員大学などは、未来志向の観点の新しい学校施設の考え方であり、特色ある学校づくりへと繋がるものと考えられる。

(3)審議スケジュール(案)について

回	日時(予定)	内容(予定)
1	5月25日(木) 19:00~20:30	<ul style="list-style-type: none">・任命書の交付・審議会について・諮問・学校の教育環境の変化と課題・令和2年度からの検討経過・審議スケジュール(案)について
2	7月27日(木) 19:00~20:30	<ul style="list-style-type: none">・保護者アンケートの結果について・学校・学級の適正規模について・特色ある学校づくり・魅力ある教育活動について
3	9月27日(水) 19:00~20:30	<ul style="list-style-type: none">・坂野委員、井出委員からの事例報告・飯田市の小中連携・一貫教育について・諮問内容についての審議等
4	11月22日(水) 19:00~20:30	<ul style="list-style-type: none">・諮問内容についての審議等
5	1月23日(火) 19:00~20:30	<ul style="list-style-type: none">・諮問内容についての審議等
6	3月19日(火) 19:00~20:30	<ul style="list-style-type: none">・諮問内容についての審議等

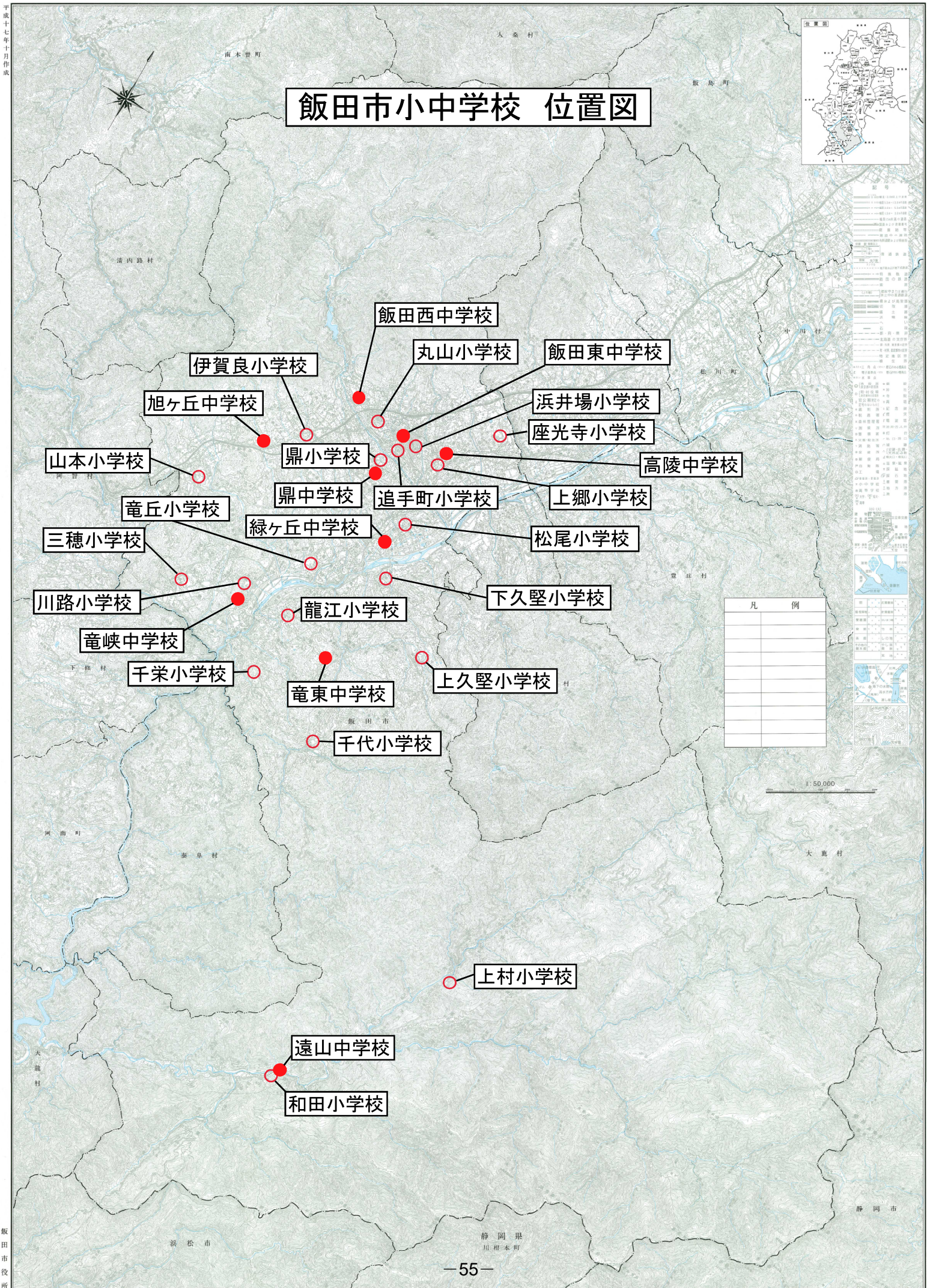
※令和6年度も年5~6回程度の審議会を予定しています。

※現時点での予定ですので、変更が生じる場合があります。

飯田市小中学校 児童生徒数・学級数一覽

学校名	令和5年5月1日現在		令和4年5月1日現在		増減	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
丸山小学校	458	16	465	17	-7	-1
追手町小学校	145	6	137	6	8	0
浜井場小学校	115	6	117	6	-2	0
座光寺小学校	214	9	235	11	-21	-2
松尾小学校	707	23	722	23	-15	0
下久堅小学校	111	6	124	6	-13	0
上久堅小学校	50	6	48	6	2	0
千代小学校	35	5	30	5	5	0
千栄小学校	28	5	31	6	-3	-1
龍江小学校	109	6	110	6	-1	0
竜丘小学校	337	12	348	12	-11	0
川路小学校	113	6	102	6	11	0
三穂小学校	72	6	73	6	-1	0
山本小学校	225	9	237	10	-12	-1
伊賀良小学校	796	25	812	26	-16	-1
鼎小学校	669	20	679	21	-10	-1
上郷小学校	694	22	734	23	-40	-1
上村小学校	19	3	19	3	0	0
和田小学校	23	3	32	5	-9	-2
小学校計	4,920	194	5,055	204	-135	-10
飯田東中学校	190	6	199	6	-9	0
飯田西中学校	209	6	225	7	-16	-1
緑ヶ丘中学校	653	19	642	19	11	0
竜東中学校	67	3	71	3	-4	0
竜峡中学校	145	6	143	6	2	0
旭ヶ丘中学校	527	15	560	16	-33	-1
鼎中学校	327	10	348	11	-21	-1
高陵中学校	511	15	513	15	-2	0
遠山中学校	25	3	27	3	-2	0
中学校計	2,654	83	2,728	86	-74	-3
総合計	7,574	277	7,783	290	-209	-13

飯田市小中学校 位置図



凡例

平成十七年十月作成

飯田市役所

この地図は、国土院の地形図を基に作成されています。詳細は、国土院の地形図を参照してください。